

相続診断士がそっと教える

AIが

# 相続を変える日



相続診断士  
山内 真二 著

待望の \ 多数のご要望に  
お答えして / 登場

ヒトの心 × AIの知恵  
= 笑顔相続の支援

# はしがき

本書は、相続専門の相続診断士がChatGPTをはじめとする生成AIをどのように業務に取り入れ、面談準備、資料作成、家族間の調整、信頼関係の構築に活かしていくかを具体例とともに解説した実践的ガイドです。

AIの得意・不得意を理解し、人にしかできない役割を再確認することで、診断士としての支援力と価値を高める新たなビジネスモデルを提案します。未来を見据えた相続支援のあり方と、明日から使えるプロンプトやツールも紹介しています。

また、AIを単なる道具として捉えるのではなく、信頼と共感を育む専門家として、どのようにAIと共存し、支援に活かしていくかについても具体的に解説しています。本書が相続診断士の方々に、少しでもお役に立てれば幸いです。

Bizdesign Consulting 代表 山内 真二  
中小企業診断士/MBA/行政書士/相続診断士

# あなたとあなたのご家族の「幸せ請負人」

## 「幸せ請負人」になるまでのストーリー

行政書士としての業務は、自筆遺言書作成の支援から始まりました。近所の一人暮らしの70代のA子さんの甥が、A子さんの将来を案じ、私に相談を持ちかけてきました。成年後見制度はA子さんの生活に不便を生じる可能性があったため見送り、認知症になる前に遺言書を作成するよう提案しました。A子さんも賛同し、私が遺言書の作成をサポートしました。

遺言書作成の支援経験がなかったため、私は実務書や法務局の情報を活用しながら学びつつ支援を進めました。A子さんが免許証を持っていなかったため、顔写真入りのマイナンバーカードを取得する必要があり、その取得に時間がかかった結果、最初の相談から遺言書を法務局に預けるまでに半年を要しました。

遺言書作成支援は、自分の勉強を兼ねたボランティアとして無料で行い、A子さんから何度も感謝され、嬉しく感じました。この経験を通じて実務を習得し、以後の公正証書遺言や遺産分割協議書の作成もスムーズに進められるようになり、今でもA子さんに感謝しています。



## 山内 真二

相続の知識を身につけ、あなたとあなたのご家族が「幸せ」に過ごせるように、遺言書を私と一緒に作成してみませんか？

ご依頼者さんとのコミュニケーションを大切に、理解しやすい言葉で情報を提供することを心がけています。ご質問や不安があれば、いつでもお気軽にご相談ください。

### 資格

- ・ 中小企業診断士
- ・ 行政書士
- ・ 相続診断士
- ・ MBA

# 目次

序章 相続診断士の役割とAI	1
第1章 AIの基本と可能性	8
第2章 相続診断士の業務におけるAIの活用ポイント	21
第3章 ケース別活用法（実践編）	45
第4章 AIを使いこなすためのスキルと心構え	65
第5章 未来を見据えた相続支援	79
巻末付録1 ChatGPT活用プロンプト集	92
巻末付録2 おすすめAIツールリスト（相続業務）	96

## 序章 相続診断士の役割と AI

### 第 1 節 相続診断士の役割と今後の進化

「先生、これって誰に相談すればいいんですか？」  
この質問を、私たち相続診断士は何度聞いたことでしょうか。

相続の現場は、多くの人にとって初めての体験です。そしてその体験は、しばしば不安と混乱に満ちています。誰に何を相談すればよいのか、自分の置かれた状況がどれほど複雑なのかさえわからない——そんな相談者の目の前で、私たち相続診断士は、いわば「人生最後の問題整理人」として立っています。

#### 相続の“入口”を担う相続診断士

相続診断士の最大の役割は、「相続の入口を整える」ことです。相続に関する相談は、法律・税金・不動産・保険・登記・遺産分割・事業承継…と多岐にわたります。その一方で、依頼者本人は何が問題で、誰に相談すべきかも見えていないことがほとんどです。

そこで私たち相続診断士は、相談者から丁寧に話を聴き、「何が問題なのか」「誰に相談すべきなのか」「優先順位は何か」といった相続の全体像を整理していきます。

このプロセスがあることで、相談者は「道筋」が見えるようになります。たとえば、税理士ではなく司法書士が適任であることがわかったり、相続税申告よりも先に遺産分割協議書を整えるべきだったり。専門家にスムーズにつながることができ、手続きが滞りなく進みます。

私たちは「相続の専門家」として、そして「相談者の伴走者」として、相続の安心を提供する存在です。

#### 増加するニーズ、多様化する相談

少子高齢化・核家族化が進むなか、相続に関する相談は増加の一途をたどっています。かつては「相続＝お金持ちの話」でしたが、いまや相続はごく一般のご家庭にとって避けては通れない問題です。財産の多少に関係なく、相続人の数や人間関係、家族構成、不動

産の所在など、あらゆる事情が複雑化しています。

さらに最近では、認知症による成年後見制度の必要性や、生前贈与・家族信託といった事前対策、終活やエンディングノートの整備といった分野まで、相続診断士が求められるフィールドは広がっています。

これらのニーズに柔軟に対応し、個別の事情に応じて最適なルートを導くことこそ、相続診断士の真価です。

## そして、AI 時代へ

こうした現代の相続事情の中で、今、大きな変化の波が押し寄せています。それが「AI の登場」です。

ChatGPT をはじめとする生成 AI は、文章作成・情報整理・質問応答・文書要約といった能力に優れており、すでに多くの業種・職種でその力を発揮しています。相続診断士の業務も例外ではありません。

たとえば、以下のような業務で AI はすでに活躍しています：

- ・ヒアリングシートやエンディングノートのひな形作成
- ・よくある相談への自動応答（チャットボット）
- ・複雑な相談内容の整理と論点の抽出
- ・ブログ記事や SNS 投稿の原稿作成
- ・相続関係説明図の自動生成支援

AI は「人間の代わり」ではなく、「人間の補完」です。私たち相続診断士が行ってきた“目配り・気配り・心配り”の部分は AI にはできません。しかし、定型的な事務作業や情報の下調べなど、時間がかかっていた作業は AI に任せることができます。

結果として、私たちは本来の“相談者に寄り添う”という本質業務に、より多くの時間とエネルギーを注ぐことが可能になります。

## 相続診断士の進化と可能性

これからの相続診断士は、AI を使いこなす「ハイブリッド専門家」へと進化していくべきだと私は考えます。

過去の経験や勘に頼るだけでなく、AI という新しい知恵を道具として活用し、より正確に、よりスピーディに、そしてより丁寧に相続者と向き合う。それがこれからの相続支援の姿です。

たとえば、ChatGPT に「遺言書のポイントを家族にわかりやすく説明する文案を作って」と依頼すれば、わずか数十秒で納得感のある文章が出てきます。

こうした「補助的知性」を取り入れることで、業務の効率化だけでなく、相談者へのサービスレベルも向上します。

また、AI が台頭する時代だからこそ、私たち人間の「共感力」や「傾聴力」といったスキルの価値はますます高まります。AI ができないこと——“心に寄り添う支援”こそが、相続診断士に求められるコアスキルとなるでしょう。

## 本書の目的

この本では、相続診断士として活動されている皆さまが、どのように AI を業務に取り入れ、どこまで活用できるのか、そしてどんな未来を創っていけるのかを、具体的な事例やツールとともに紹介していきます。

「AI なんて難しそう」「自分に使いこなせるかな」と不安に思う方も多いと思います。しかし、安心してください。本書では、専門知識やプログラミングスキルがなくても使える方法を中心に紹介します。

相続診断士という尊い職業を、もっと多くの人に届けるために。  
そして、一人でも多くの方の“幸せな相続”を実現するために。  
AI をあなたの“右腕”として迎え入れる準備を、一緒にはじめましょう。

ご希望があれば、これをベースにトーンを調整したり、章立てに合わせた調整も可能です。  
さらに続きの章の執筆もお手伝いできますので、ぜひお知らせください！

## 第2節 なぜ今、AIを知る必要があるのか

—— 相続診断士の視点から

「AI? …それって、私たちの業務に関係あるの？」

そう思われる相続診断士の方は、まだまだ少なくないかもしれません。

確かに、相続という仕事は、単なる法律や手続きだけではなく、人と人との感情、家族の歴史、人生の節目に深く関わる「人間的な仕事」です。そこに、無機質な AI が関われる余地があるのか、疑問に思うのも当然のことです。

しかし、私は断言します。

**今、私たち相続診断士が AI を学ぶことには、極めて大きな意味があるのです。**

それは単なる「時代の流れ」や「新しいもの好きだから」ではありません。

むしろ、私たちがこれからも「相続という仕事で人に寄り添い続ける」ために、AI を知り、活かすことが必要不可欠になってきたのです。

### ■ 理由 1：相続相談の質と量が劇的に変わってきた

相続に関する相談は年々増え続けています。

理由は明白で、少子高齢化・核家族化の進行により、どの家庭も“相続”を避けて通れなくなったからです。

特に近年では、以下のような傾向が顕著です：

- ・相続人同士の関係が希薄（兄弟が疎遠・遠方など）
- ・相続財産が現預金ではなく、不動産や未上場株式などで分けにくい
- ・認知症・高齢化により、生前対策の重要性が高まっている
- ・家族信託や成年後見制度など、制度自体も多様化・複雑化

これまでよりもはるかに「複雑」かつ「個別性の高い」相談が増えているのが、現場のリアルです。

そして、それらに丁寧に対応するためには、単純な人手だけでなく、“情報整理力”と“スピー

ド”が求められるようになってきています。

このとき、AI はまさに頼れる“補助脳”になります。

たとえば、複数の相談内容を要約して論点を整理したり、類似事例を参考にアドバイスの叩き台を出してくれたり。AI は、私たちが「もっと人に向き合う」ための時間をつくってくれるのです。

## ■ 理由 2 : 情報過多の時代に「整理力」が求められる

今の相談者は、相続に関する情報をすでに大量に持っています。

ネット検索、YouTube、SNS…どこを見ても相続情報があふれており、誰もがある程度の“予習”をして相談に来られます。

しかし——その情報の多くは不正確だったり、部分的だったり、誤解されていたりするものが現実です。

つまり、私たち相続診断士に求められるのは、「知識」よりも「情報の整理力」なのです。

ここで AI の力は非常に大きな意味を持ちます。

例えば、ChatGPT に対して「〇〇な状況の相続について、よくある勘違いを 3 つ挙げて」と聞けば、瞬時に整理された情報が出てきます。

相談者が混乱している場合でも、AI と共に情報を見直し、必要な知識を“わかりやすく”提示することができるようになります。

これにより、私たち相続診断士は「情報の交通整理人」として、より大きな信頼を得ることができるのです。

## ■ 理由 3 : 業務の効率化 = 人間力の再投資

私たちの仕事には、たくさんの「付随的業務」があります。

- ・面談前のヒアリングシートの作成
- ・エンディングノートの整備支援
- ・面談後の記録やまとめの作成

- ・お礼状や報告書の作成
- ・よくある質問に対する説明資料づくり

これらの業務は、相続診断士の本質的価値である「相談者への寄り添い」ではありません。でも、時間と手間はかかります。そしてそれが業務量を圧迫し、相談者一人ひとりにかける時間を制限してしまう。

ここで AI が生きてきます。

たとえば、ChatGPT に「70 代の女性にわかるように、家族信託の概要を説明する文を作って」と依頼すれば、30 秒でそれなりの下書きが出てきます。もちろん手直しは必要ですが、ゼロから考えるよりはるかに早く、質も高いものです。

つまり、**AI にルーティン業務を任せ、人間しかできない“心のケア”に集中**できるようになるわけです。

これはまさに「効率化のための効率化」ではなく、「人間力への再投資」だと私は考えています。

#### ■理由 4：相談者も“AI 世代”になりつつある

いま、40 代～50 代の「相談者予備軍」は、スマートフォン世代です。

子どもに LINE で連絡し、Amazon で本を買い、ChatGPT を使ったことがある——そんな人たちが、あと数年で“親の相続”という大きな問題に直面します。

このとき、相談者の感覚と専門家の感覚にギャップがあったら、どうなるでしょう？

「AI を使っている = 時代についていっている専門家」と思われるか、

「IT に弱そう = なんとなく頼りない」と思われるか。

専門家である私たちが時代の変化を受け入れ、AI を柔軟に取り入れている姿勢そのものが、**安心感や信頼感の一部**になる時代が、すでに始まっているのです。

#### ■理由 5：AI は“相談相手”にもなりうる

もうひとつ、少し未来の話をさせてください。

相続診断士は、個人事業主として一人で活動している方も多く、実務で悩んだときに「誰かにすぐ相談できる」環境にない方も多いのではないのでしょうか。

ここで AI は、“**もう一人の自分**”のような存在”になります。

- ・このアドバイスでよいか、他の視点はないか？
- ・相手が不安そうなとき、どう伝えたらいいか？
- ・この書類、もっと良い表現はないか？

そんなときに、ChatGPT のような AI に「相談する」ことができます。これはもはや、単なるツールを超えた「パートナー」です。

実際に、私は日々の相続業務の中で、「AI に聞いてから動く」ことが増えています。最終判断はもちろん人間がしますが、迷ったときに“壁打ち”できる存在があるというのは、実務者にとって心強いことです。

## ■まとめ：「知らない」は、最大のリスクになる

AI を知ることは、決して“流行に乗る”ことではありません。

私たち相続診断士が、これからも「相談者に寄り添い続ける」ために、AI という新しい知恵と道具を理解し、味方につけることが大切なのです。

そして、AI は決して“敵”ではありません。

私たち人間の「やさしさ」「直感」「経験」といった、AI には決して真似できない力と組み合わせることで、はじめて本領を発揮する存在です。

この本を通して、AI と共に生きる“次の時代の相続診断士”への第一歩を、あなたと一緒に踏み出せたら幸いです。

## 第 1 章 AI の基本と可能性

### 第 1 節 AI とは何か？（ChatGPT や生成 AI の基本）

「AI ってよく聞くけど、正直よくわからない…」

多くの相続診断士の皆さんが、そう感じているのではないのでしょうか。

AI（人工知能）という言葉は、もはや日常のニュースや広告でも頻繁に見かけるようになりまし。しかし、その中身を本当に理解している人は、意外と少ないのが現状です。

この章では、「相続業務に役立つ AI とは何か」をテーマに、ChatGPT など生成 AI の仕組みと基本を、専門知識ゼロでもわかるようにお話ししていきます。

結論から言えば、AI は決して“魔法”でも“脅威”でもありません。正しく使えば、私たち相続診断士にとって、時間と労力を削減し、相談者により丁寧に寄り添うための“最強の右腕”になる存在です。

#### ■ AI とは何か？ 簡単に言えば「かっこいい道具」

まず、AI とは「Artificial Intelligence」の略で、日本語では「人工知能」と訳されます。ただし、ここで言う“知能”は、人間のように考えたり感情を持ったりするという意味ではありません。

相続診断士の業務に関係する AI は、主に「生成 AI」と呼ばれるもので、**大量の情報をもとに文章や画像などを“新しく作り出す（＝生成する）”能力を持った AI** のことを指します。

つまり、AI とは：

- ・たくさんの知識を記憶している
- ・指示を与えると、それに応じた内容をつくる
- ・わかりやすく言えば、“とても賢い会話型の検索エンジン＋作文マシン”

このようなイメージを持っていただけると、ぐっと身近になります。

## ■ ChatGPT とは何か？

相続診断士として注目すべき AI の一つが「ChatGPT（チャットジーピーティー）」です。これは、アメリカの OpenAI 社が開発した対話型 AI です。

特徴は、簡単に言えば以下の 3 つです：

- ① 人間のように自然な文章で会話できる
- ② 質問や命令（＝プロンプト）に応じて、的確に文章を生成してくれる
- ③ 24 時間・無限に使える“AI アシスタント”である

たとえば、ChatGPT にこう話しかけたとします：

**「70 代の女性に向けて、家族信託のメリットをやさしく説明する文章を作ってください」**

すると、ChatGPT は数秒で、それらしい説明文を出してくれます。それも、こちらの言葉遣いやトーンに合わせて、まるで同僚が作ってくれたような自然な文章を提供してくれます。

## ■ ChatGPT の仕組みはどうなっているのか？

ChatGPT の中身は「LLM（大規模言語モデル）」という AI の一種で、インターネット上にある膨大なテキスト（書籍、記事、法律文書など）をもとに、“言葉と言葉のつながり方”を学習しています。

これをたとえて言うなら：

- ・赤ちゃんが周囲の会話を聞きながら言葉を覚えていくように
- ・AI も「こういう質問には、こんな返事が多い」というパターンを覚えていく

その結果、「家族信託とは？」という質問には、「高齢化社会において、親の財産を守るための制度です」といった“最もふさわしいと推測される答え”を返してくれるわけです。

注意点として、ChatGPT は「考えて答えている」のではなく、「もっともそれらしい答えを予測している」という点が重要です。つまり、正しいように見えるけれど、時に間違ってしまうこともある。それを補正するのが、私たち人間の役割です。

## ■ AI と検索エンジンはどう違う？

「それって、Google 検索でもできるのでは？」と思う方もいるでしょう。  
確かに、Google は長年、相続業務の情報収集に欠かせないツールでした。

しかし、AI との違いは次のとおりです：

比較項目	Google 検索	ChatGPT (AI)
出力形式	複数のウェブサイトのリンクを提示	その場で文章を生成
情報収集の手間	自分でクリックして読まなければならない	一度の質問で要点を整理してくれる
質問の形	キーワード中心（例：「家族信託相続」）	自然文でも OK（例：「80代の親に家族信託をすすめる理由を教えてください」）
個別性	一般的な情報	自分の相談内容に合わせた文を作れる

このように、ChatGPT は“情報のまとめ役”としても非常に優秀なのです。

## ■ 相続診断士が ChatGPT でできることの例

実際に、私が日々の相続業務でどのように ChatGPT を使っているか、その一部をご紹介します：

- ✓ ヒアリング前の質問項目の作成  
→ ChatGPT に「相続相談で確認すべき質問リストを作って」と伝える
- ✓ エンディングノートの文案づくり  
→ 相談者のプロフィールに応じて、家族へのメッセージ案を作成
- ✓ ブログや SNS の原稿作成  
→ 「相続登記の義務化について、素人にもわかる記事を」と依頼
- ✓ 面談記録の要約・報告書の下書き  
→ メモを投げ込んで、「要点を箇条書きにしてください」と依頼

このように、ChatGPT は日々の業務を“時短”し、私たちが「もっと人と向き合う」時間を作ってくれます。

## ■ AI は“脅威”ではなく“補完”

AI の話をすると、「仕事が奪われるのでは？」という不安の声もあります。

しかし、相続の仕事は“人の心に寄り添う仕事”です。

AI には、家族の歴史や感情、背景を読み解いて、「その人にふさわしいアドバイスをする力」はまだありません。

つまり、AI は「代わる」のではなく、「支える」存在。

相続診断士にしかできないことを、より深く、広く、丁寧に行うための補助役なのです。

たとえるなら、AI は「ターボエンジン付きの自転車」です。

ペダルをこぐのは自分。でも、負荷が軽くなり、遠くまで行けるようになる。

それが AI を使うということです。

## ■ これからの相続診断士は「AI リテラシー」も武器になる

時代の変化に柔軟に対応できる専門家こそ、相談者から選ばれる存在になります。

AI を活用できる相続診断士は：

- ・正確で迅速な対応ができる
- ・多様なニーズに応じた提案ができる
- ・情報をわかりやすく伝える力が高まる

つまり、**AI を使えることそのものが「信頼」と「価値」の証明**になる時代が、すぐそこまで来ているのです。

## ■ まとめ：AI を“道具”として使いこなそう

AI の世界は広大で、奥が深いです。しかし、すべてを理解する必要はありません。

私たち相続診断士に必要なのは、「今すぐ使える便利な道具」として、AI を“正しく”“ほどよく”使いこなすことです。

この章でお伝えしたいのは、ただ一つ。

**AIは、私たちがもっと“人間らしい仕事”に集中するための、最高の相棒になり得るということ。**

この後の章では、実際の活用事例や、AIを業務に取り入れるステップを詳しくご紹介していきます。ぜひ、あなた自身の仕事に活かせるヒントを見つけてください。

## 第2節 相続診断士が知っておくべき AI の特徴

——「相棒」として AI を使いこなすために

「AI が話題になっているけど、自分の業務にどう関係するのかわからない」

「ChatGPT がすごいらしいが、使い方がピンとこない」

相続診断士として日々現場で相談者と向き合っていると、こうした疑問を抱くことはごく自然なことです。

私たちはテクノロジーの専門家ではありませんし、プログラミングを学んできたわけでもありません。

しかし、AI の基本的な特徴さえ押さえておけば、相続業務の中で“使える場面”と“使ってはいけない場面”が判断できるようになり、AI を怖がる必要がなくなるのです。

この節では、相続診断士として最低限押さえておきたい AI の特徴について、できる限りわかりやすくお伝えします。

### ■ 特徴①：AI は「予測するもの」であって、「理解するもの」ではない

まず最初に大切なこと、それは AI は人間のように“理解している”わけではないということです。

たとえば、ChatGPT は私たちの質問に対して、まるで考えているかのように自然な答えを返してきます。

ですが、その答えは「意味を理解しているから出している」のではなく、**過去に学んだ膨大な文章データから“最もありそうな答え”を予測している**に過ぎません。

この違いはとても重要です。

私たち人間は、背景や文脈、感情や倫理といった“目に見えないもの”をくみ取って判断しますが、AI にはそれができません。あくまで「言葉と言葉のつながり」を統計的に学習しているに過ぎないのです。

つまり、AI は“考える存在”ではなく、“答えを予測する道具”だということを、まず理解して

おきましょう。

## ■ 特徴②：AI は「スピード」と「整理力」に優れている

相続業務では、多くの情報を整理し、要点をつかみ、分かりやすく伝えることが求められます。

ここに AI は抜群の力を発揮します。

たとえば、以下のような活用が可能です：

- ・長文の面談メモを要点ごとに要約してくれる
- ・相続に関する難解な制度（家族信託、遺留分など）を素人にもわかる文章に直してくれる
- ・「70 代女性にわかりやすく、成年後見制度を説明して」と依頼すれば、相応しいトーンの文を生成してくれる

これまでは、私たちが 1 時間かけてやっていた情報整理が、数分で終わる。

その分、相談者の話にじっくり耳を傾ける時間が確保できます。

つまり、AI は「情報処理と文章化のパートナー」として使うのが非常に有効なのです。

## ■ 特徴③：「指示の出し方」で成果が大きく変わる

ChatGPT などの生成 AI は、「プロンプト（命令文）」をもとに動きます。

つまり、「何をどう聞か」が、出てくる答えの質を大きく左右するのです。

たとえば、以下のような違いを比べてみてください。

- ・単に：「相続について教えて」
- ・より効果的に：「70 代の一人暮らしの女性が、息子に財産を円滑に引き継がせたいと思っています。専門用語を使わずに相続全体の流れを説明してください」

後者のほうが、より具体的で相談者に合った答えが返ってくることは想像に難くありません。

このように、AI を使いこなすカギは「質問力（プロンプト力）」です。

これはまさに、私たち相続診断士が日頃から培ってきた「ヒアリング力」そのもの。

つまり、**AI を使いこなせる人 = 相談上手な人**とも言えるのです。

#### ■ 特徴④：AI には「苦手なこと」もある

AI は万能ではありません。特に、相続業務においては以下のような場面で注意が必要です。

##### ✕ 最新の法律や制度に弱い

ChatGPT は学習データの更新にタイムラグがあります。たとえば、令和 6 年 4 月から始まった「相続登記の義務化」など、最新の法改正情報が反映されていないこともあります。

##### ✕ 事実確認・調査は苦手

「この不動産の評価額を教えて」や「A 市の相続税率はいくら？」といった具体的な数値や地域情報は、AI が正確に答えられないことがあります。

##### ✕ 感情・人間関係を読み取れない

「兄弟仲が悪く、母の面倒を見ていた長男が財産を多くもらうことに対して次男が納得しない」といったケースでは、感情の機微をふまえた配慮が必要ですが、AI はその空気を読みません。

こうした場面では、AI に頼らず、私たちが責任をもって対応すべきです。

AI は“便利な道具”ですが、“最終判断者”ではありません。

**AI の限界を知ることが、安全に活用する第一歩**なのです。

#### ■ 特徴⑤：「学習しない AI」と「学習する AI」がある

ChatGPT を含め、多くの AI ツールは「一度の会話でリセットされる」タイプのものが主流です。つまり、「あなたの相談スタイル」「業務の癖」などを継続的に学習するわけではありません。

ただし、最近ではカスタム AI（自分専用の AI）や、相談履歴を記憶してくれる高機能な有料プランも登場しています。

相続診断士としてのノウハウや雛形を AI に学習させ、より“自分らしい AI”を育てることも、今後の選択肢になります。

将来的には、「〇〇先生の相談スタイルを再現する AI」が、業務補助だけでなく後進の育成にも使えるかもしれません。

### ■特徴⑥：AI は“疲れ知らず”で“誰でも使える”

最後に、AI の最も実用的な特徴を挙げておきましょう。

それは、「AI は 24 時間 365 日、疲れず、文句も言わず、正確に動くアシスタント」であるという点です。

- ・夜に急に浮かんだアイデアを形にしたいとき
- ・連続した業務で自分が疲れているとき
- ・複数の案件を並行してこなさなければならないとき

そんなとき、AI はいつでも、同じ集中力であなたの業務をサポートしてくれます。

しかも、今ではスマホ 1 台で使えるようになっているため、パソコンが苦手な方でも気軽に使えます。

「IT が苦手だから…」とためらう必要はまったくありません。

### ■まとめ：AI の“得意”と“苦手”を見極めて、業務の味方に

相続診断士が AI と上手につきあうために、押さえるべきポイントは以下の通りです：

特徴	意味
AI は「予測する」だけで「理解」はしていない	感情や背景をくみ取るのは人間の役割
情報の整理と文章作成が得意	業務のスピードアップに貢献
指示の仕方（プロンプト）が結果を左右する	質問力が成功のカギ
最新情報や感情面の配慮は苦手	最終確認・判断は人間が行う
24 時間 365 日働くアシスタント	忙しい業務の強い味方

AI は私たちの“代わり”ではなく、“パートナー”です。

これからの相続診断士は、AI という新しい知恵と技術を使いこなしながら、**人間にしかできない“寄り添い”と“判断”で、真のプロとしての価値を発揮していく時代**に入っていくのです。

### 第3節 AIは「人を代替する」のではなく「人を補完する」

—— 相続診断士こそ、AI時代の“人間力”が武器になる

「AIが人間の仕事を奪う時代が来る」といった見出しを、皆さんも一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。

ChatGPTの登場以降、生成AIは爆発的に広がり、多くの職業に影響を与えています。中には「相続相談もAIに任せるようになるのでは？」と不安を感じている相続診断士の方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、結論から申し上げます。

**AIは、私たち相続診断士の“代わり”になる存在ではありません。むしろ、“補完し、助けてくれる相棒”なのです。**

この節では、相続診断士という「人に寄り添う専門家」にとって、AIがどのように補完的に活用できるのか。そして、AI時代において私たちが持ち続けるべき「人間らしさ」とは何かを考えていきましょう。

#### ■ 相続相談は「感情」と「関係性」の中にある

私たち相続診断士が向き合っているのは、単なる法律や制度ではありません。

それは、「家族の歴史」であり、「人生の節目」であり、そして時には「心の痛み」でもありません。

たとえば、以下のような場面に、私たちは日常的に出会います：

- ・母親を亡くしたばかりの娘さんが涙ながらに語る、「お母さんの想いをちゃんと受け継ぎたいんです」という言葉
- ・仲の悪い兄弟の間で「本当に公平な分け方とは何か？」に悩む長男の葛藤
- ・認知症になりかけた親を前に、相続対策を急ぐかどうか迷う家族

これらは、法的な知識や制度だけでは解決できません。

そこにあるのは、人と人の関係性、気持ち、そして“物語”です。

AIには、これを読み取ることはできません。AIは膨大なデータを学習して文章を生成する

ことは得意ですが、目の前の相談者がどんな気持ちでその言葉を発しているか、顔の表情や声のトーンから背景を察するような“人間的な感受性”は持ち得ないのです。

だからこそ、相続相談という仕事は、AI には代替できない“人間にしかできない仕事”なのです。

## ■ AI が補完してくれるのは「作業」、私たちがすべきは「対話」

とはいえ、相続相談にまつわる業務のすべてが「人間にしかできない」わけではありません。

むしろ、多くの時間を取られているのは、以下のような作業です：

- ・面談前の情報整理
- ・ヒアリングシートの作成
- ・よくある質問への対応
- ・書類作成（遺言書案、エンディングノート案、相続関係説明図の下書きなど）
- ・面談後の議事録や報告書のまとめ
- ・法制度の説明文の作成

これらの業務は、ある程度パターンがあり、再現性が高いため、**AI に任せることが可能**です。

AI は 24 時間 365 日働き、ミスも少なく、スピードも早い。単純作業の部分を AI が代行してくれれば、私たちはもっと「**人との対話**」に集中できるようになります。

たとえば、以下のような使い方が現実的です：

- ・ChatGPT に「相続相談時に必要なヒアリング項目をリスト化して」と依頼し、事前準備に活用する
- ・「70 代の女性に向けた、遺言の重要性を説明する文を書いて」と頼んで、相談資料を自動作成する

面談後の録音内容をもとに、「要点を箇条書きでまとめて」と依頼して、議事録の下書きにする

こうした業務は、AI が最も得意とする領域です。**人間がやるよりも早く、正確に、疲れ知ら**

ずで対応してくれます。

つまり、AI は私たちの“事務作業の右腕”として活躍し、私たちは“人の心に寄り添う左腕”として本質的な業務に集中できる。これこそが理想的な“人と AI の協働”の姿なのです。

## ■ AI が補完することで「あなたの価値」はもっと高まる

ここで、相続診断士としての“価値”について、改めて考えてみましょう。

あなたの価値は、「遺言書を作れること」や「相続関係説明図を描けること」だけではありません。

**「安心できる相談相手がいる」という、心理的な価値こそが、相談者にとって最大のメリットなのです。**

- ・「この先生に相談すれば、安心できる」
- ・「話をちゃんと聴いてくれる」
- ・「専門家だけど、難しいことをわかりやすく話してくれる」

そう思ってもらえることこそ、AI には絶対に真似できない“人間力”の証です。そして、AI が事務作業を補完してくれるからこそ、あなたは相談者と向き合う時間を十分に確保でき、その“価値”を最大限に発揮できるようになるのです。

## ■「AI + 人間」でこそ生まれる、新しい相続支援のカタチ

これからの時代、相続診断士は「AI を使いこなせる人」かどうかで、業務の質も効率も大きく変わってきます。

しかし、**AI を取り入れるということは、仕事を機械化することではありません。**

むしろ、人間にしかできない仕事——「寄り添い」「共感し」「一緒に考える」という本質的な価値を、もっと深めていくための武器として使うのです。

たとえば、相談者との会話の中で、「今この場面でこういう説明資料があればもっと伝わるな」と思ったとき、数分で ChatGPT に作ってもらえれば、対話の質は格段に向上します。

また、事前に相談内容を ChatGPT に要約させておけば、相談者が何に悩んでいるかの“全体像”をつかむのも早くなります。

そうならば、最初の 30 分で信頼関係を築くスピードも大きく変わってくるでしょう。

つまり、AI を使うことで「人間としてのあなた」がもっと輝く時代がやってくるのです。

## ■まとめ：AI 時代に必要なのは、“人間らしさ”を武器にすること

AI は、もはや「来るかもしれない未来」ではなく、すでに私たちの目の前にある“現在の道具”です。

その進化は止まることなく、ますます私たちの業務に深く関わってくるでしょう。

しかし、それは決して「人間がいなくなる未来」ではありません。

むしろ、「人間にしかできないこと」がより際立つ未来です。

私たち相続診断士が持つ、以下のような力は、AI には真似できません：

- ・相談者の心の声に耳を傾ける「傾聴力」
- ・家族の歴史や人間関係から最適な道を導く「判断力」
- ・言葉だけではなく、空気感や沈黙を読み取る「共感力」

これらの“人間力”こそが、AI 時代に最も価値のあるスキルなのです。

だからこそ、私たちは AI を「恐れる対象」ではなく、「信頼できる相棒」として迎え入れるべきです。

**AI が補完し、人間が本質に集中する——その連携こそが、これからの相続診断士の新しいスタンダードになるでしょう。**

次章では、実際に AI をどのように活用していくか、その具体的な事例やノウハウを紹介していきます。ここまで読んで「自分にもできそうだ」と思えた方、ぜひ一歩を踏み出してみてください。AI は、あなたの中にある“本当の価値”を、さらに大きく引き出してくれるはずです。

## 第 2 章：相続診断士の業務における AI の活用ポイント

### 第 1 節 面談前の情報整理：ChatGPT でヒアリング項目の準備

—— “最初の 30 分”が相続相談の明暗を分ける

「先生に何から話せばいいか、正直わからなくて……」

これは、相続相談の現場で何度となく耳にする言葉です。

私たち相続診断士の役割のひとつは、「何から聞き出し、何を深掘りし、何を次に繋げるか」を見極めることにあります。

そのためには、**面談前の“準備”がすべてを左右する**と言っても過言ではありません。

ヒアリング項目が整っていれば、相談者の悩みの本質に早くたどり着けます。逆に、準備不足のまま面談に入ると、時間を浪費し、信頼関係の構築が遅れ、本来届けられたはずの提案もズレたものになってしまいます。

このような“面談前の情報整理”に、ChatGPT は驚くほど役に立ちます。この章では、ChatGPT を使って効率的かつ的確にヒアリング項目を準備する方法を、相続専門の視点からわかりやすく解説していきます。

#### ■ なぜヒアリング項目が重要なのか？

相続相談では、相談者自身も「自分が何に困っているのか明確でない」ことがほとんどです。

表面上の相談内容は「遺言を作りたい」「相続税が心配」「不動産をどう分けるか悩んでいる」といった形ですが、その背景にはさまざまな要因が複雑に絡んでいます。

- ・家族間の関係性（仲が良い？悪い？連絡は取っている？）
- ・財産の内容（不動産中心？預貯金が多い？名義は？）
- ・過去の相続経験（揉めたことがある？）
- ・本人の希望や不安（遺された家族のことを考えている？節税が目的？）

こうした“見えにくい部分”を引き出すためには、事前にヒアリング項目を設計しておく必要があります。

それを「まるごと ChatGPT に助けてもらう」というのが今回のテーマです。

## ■ ChatGPT を使ったヒアリング準備の流れ

ChatGPT を活用する際の基本的な流れは以下の通りです：

- ① 相談者の基本情報を整理する
- ② ChatGPT に「どんなことを聞くべきか」を尋ねる
- ③ 必要に応じて質問内容をカスタマイズする
- ④ ヒアリングシートに落とし込む

実際の例を交えて見ていきましょう。

## ■ ステップ 1：相談者の基本情報を整理する

まず、ChatGPT に質問する前に、相談者について自分が把握している情報を箇条書きにしておきます。たとえば：

- ・相談者：70 代女性、配偶者は 5 年前に他界
- ・子ども：長男・長女の 2 人（いずれも独立、別居）
- ・財産：自宅不動産、預貯金、少額の株式
- ・希望：「家族に迷惑をかけたくない」「相続争いは避けたい」

この程度の情報があれば十分です。

## ■ ステップ 2：ChatGPT に質問する

次に、ChatGPT に以下のように依頼します：

**「以下のような相続相談者に対して、面談で聞いておくべきヒアリング項目をリストアップしてください。」**

- ・相談者：70 代の女性、配偶者は他界
- ・子どもは 2 人（別居）
- ・財産は自宅と預貯金、株式
- ・本人の希望：家族に迷惑をかけたくない、相続争いを避けたい

ChatGPT は、この依頼に対して次のような回答を返してくれるでしょう（一例）：

## ChatGPT の回答例（要約）：

### A. 家族構成に関する質問

- ・相続人（子ども）の連絡状況や関係性はどうか？
- ・遺言の有無と作成の希望
- ・子ども間で不公平感が生じそうな要因はあるか？

### B. 財産に関する質問

- ・自宅の名義・評価額・管理状態
- ・預貯金の金融機関、おおまかな残高
- ・株式の種類と証券会社の管理状況

### C. 本人の意向に関する質問

- ・財産の分け方についての希望（平等？長男優先？）
- ・亡くなった後の自宅の扱いについての意向
- ・葬儀や納骨に関する考え、エンディングノート作成の有無

### D. 過去の経験・将来の懸念

- ・過去に相続でもめた経験があるか
- ・認知症への備え（成年後見、家族信託の検討）
- ・相続税の心配・節税ニーズはあるか？

このように、ChatGPT は“聞き漏らしそうな視点”を自動的に補ってくれる点が非常に優れています。

## ■ステップ3：自分のスタイルに合わせて調整する

ChatGPT から提案されたヒアリング項目は、すべてそのまま使う必要はありません。自分の業務スタイルや相談者の属性によって、質問の順番を変えたり、削ったり、言い回しをやさしくしたりすることで、「あなたの面談スタイルに合ったヒアリングシート」がすぐに作成できます。

たとえば、高齢者の相談者が相手なら：

- ・「相続人との関係性は？」→「お子さんとは普段どんな感じですか？」
- ・「不動産の評価額は？」→「今のお住まいはどれくらいで買われたか覚えていますか？」

このように、ChatGPT は“たたき台”を出してくれるツールとして使うのが最も効果的です。

#### ■ ステップ 4 : ヒアリングシート化し、PDF 化も可能

ChatGPT で整理した質問をもとに、Word や Google ドキュメントでヒアリングシートを作成し、必要であれば PDF 化して印刷・共有すれば完了です。

また、ChatGPT 自体に以下のように依頼すれば、書式化までしてくれます：

「上記のヒアリング項目を、チェック形式のヒアリングシートにして、箇条書きでまとめてください。」

このようにすれば、現場ですぐに使える“自作のヒアリングツール”が、数分で完成してしまうのです。

#### ■ 面談の質が変われば、信頼の築き方も変わる

このように AI を活用することで、“面談前の準備”にかかる時間は大幅に短縮され、内容の質も向上します。

結果として、以下のようなメリットが得られます：

- ・相談者の不安に素早く応えることができる
- ・「この先生、よく準備してくれてる」と安心感を与えられる
- ・面談後の資料作成もスムーズに進む
- ・聞き漏らしや認識違いのリスクが減る

つまり、「最初の 30 分の精度」が変わることで、信頼関係の築き方が変わるのです。

#### ■ まとめ : AI は“面談の質”を底上げしてくれる

ChatGPT のような生成 AI は、相続診断士のように「人と話す仕事」にとって、単なるツールではありません。

それは、“事前準備のスピードと精度を高め、相談者との時間をより価値あるものに変えてくれるパートナー”なのです。

- ・ヒアリングの質が変われば、提案の精度も変わります。
- ・提案の精度が変われば、相談者の満足度も変わります。
- ・満足度が変われば、信頼関係と紹介が生まれます。

その最初の一步が、「AIを使った情報整理」にある——。  
これこそが、相続診断士にとっての“AI時代の新常識”と言えるでしょう。

## 第2節 エンディングノートや相続チェックリストの自動作成

—— ChatGPT が“あなた仕様”の資料をつくる時代へ

「エンディングノート、ちゃんと書きたいけど、どこから手をつけていいのかわからない」  
「チェックリストは便利だけど、相談者によって内容を変えるのが面倒で……」

これは、相続の相談現場でよく耳にする“準備段階のつまずき”です。  
私たち相続診断士にとって、エンディングノートや相続チェックリストは、相談者と「相続の全体像」を共有し、対策の第一歩を踏み出すための重要なツールです。

しかし現実には、これらを一人ひとりの状況に応じてカスタマイズするには手間と時間がかかります。  
そんな中で、私たちが力強くサポートしてくれるのが、ChatGPT をはじめとする生成 AI です。

この節では、**相続診断士が AI を活用してエンディングノートやチェックリストを自動作成する方法と、そのメリット**を、現場目線でお伝えしていきます。

### ■ エンディングノートの価値と課題

まず確認しておきたいのは、「エンディングノート」は単なる記録帳ではなく、**相談者の思いや希望、価値観を“見える化”**するツールだということです。

エンディングノートには、以下のような情報が含まれます：

- ・基本情報（氏名・家族構成・連絡先など）
- ・医療・介護に関する希望
- ・財産の概要
- ・葬儀・お墓についての希望
- ・遺言書の有無や保管場所
- ・家族へのメッセージ

これらを通じて、相談者の考えや背景を知ることができるため、相続診断士としても、より深いアドバイスができるようになります。

しかし一方で、エンディングノートの作成には以下のような課題もあります：

- ・相談者によって必要な項目が違う
- ・汎用的なテンプレートだと情報が足りない or 多すぎる
- ・質問の順序や言葉選びが相談者にとって難解

そこで ChatGPT を使えば、一人ひとりに合わせた“オーダーメイド型のエンディングノート案”を自動生成できるのです。

## ■ ChatGPT を使ったエンディングノート作成の実例

例えば、以下のように ChatGPT に指示します：

**「60 代の女性で、配偶者が存命、子どもが 2 人（独立済み）。自宅と預金が主な財産。自身の医療・介護や葬儀の希望を明確にしたい方に向けて、やさしい言葉で記入式エンディングノートを作ってください」**

このように伝えると、ChatGPT は次のようなテンプレートを生成してくれます（一部抜粋）：

### ChatGPT 生成例：エンディングノート（抜粋）

【私について】

- ・名前： \_\_\_\_\_
- ・生年月日： \_\_\_\_\_
- ・血液型： \_\_\_\_\_

【家族について】

- ・配偶者の名前： \_\_\_\_\_
- ・子どもの名前・連絡先： \_\_\_\_\_

【財産について】

- ・自宅：住所・名義・ローンの有無
- ・預貯金：銀行名・口座種類・おおよその金額
- ・その他：保険・株式など

【医療・介護について】

- ・延命治療についての考え：はい／いいえ／家族に任せる

・介護が必要になった場合の希望：在宅／施設／未定

【葬儀について】

・希望する葬儀の形式：家族葬／一般葬／未定

・希望する宗教・宗派：\_\_\_\_\_

【家族へのメッセージ】

・今、伝えたいことを書いてみましょう

「\_\_\_\_\_」

これを Word や PDF にしてそのまま相談者に渡してもいいですし、「高齢者向けにもっとやさしい言葉にしてください」と再依頼することも可能です。

“相談者の属性に応じた、カスタマイズ可能なエンディングノート”が、数分で手に入るのです。

## ■ 相続チェックリストの自動作成も AI におまかせ

相続相談の初期段階では、相談者が「何が相続財産に該当するのか」「誰が相続人になるのか」など、基本的な理解が曖昧なことが多くあります。

そこで「相続チェックリスト」が役立ちます。以下のような目的で使用されます：

- ・現状の確認（遺言書の有無、財産の内容、相続人の把握）
- ・問題点の早期発見（名義の確認、不要な契約の存在など）
- ・必要な専門家との連携判断（税理士、司法書士など）

ChatGPT に以下のように指示すれば、チェックリストを自動作成してくれます：

**「50代男性が、親の相続について準備したいと考えています。親は80代で健在。不動産や預金の名義確認、遺言書の有無など、相続準備のためのチェックリストを作ってください」**

### ChatGPT 生成例：相続準備チェックリスト（抜粋）

- 親名義の不動産の所在地と登記内容を確認した
- 預貯金口座の数と銀行名を把握している

- ✓ 株式・投資信託・保険などの金融資産を把握している
- ✓ 借入金や負債の有無を確認した
- ✓ 遺言書があるかどうかを確認した（自筆・公正証書）
- ✓ 認知症対策を検討している（家族信託・任意後見など）
- ✓ 相続税がかかりそうか、税理士と相談する予定がある

このようなチェックリストは、相談前に配布しておくことで、面談当日の情報量が格段に増え、相談の質が上がります。

## ■ 相続診断士の“差別化ツール”としての AI 資料作成

エンディングノートやチェックリストを AI で効率化することは、単なる“業務効率化”にとどまりません。

“相談者一人ひとりに合った資料を作れる専門家”という新しい価値を提供できるということです。

例えば、

- ・若い世代向けには「親のための相続準備チェックリスト」
- ・終活希望の高齢者には「一枚でできるエンディングノート簡易版」
- ・事業承継を控えた経営者には「法人 + 個人財産の棚卸しチェック表」

このように、相談者の属性ごとに資料を瞬時に生成・編集できることで、あなたの信頼性と専門性が格段に高まるのです。

## ■ まとめ：AI を活かせば、あなたの“手間”が“価値”に変わる

エンディングノートやチェックリストの作成は、これまで「手間がかかるが重要な作業」でした。しかし、ChatGPT の登場によって、それが「簡単に作れて、差別化になる武器」へと変わったのです。

- ・資料作成の時間は短縮
- ・内容は相談者ごとに最適化
- ・あなたの専門性は一層際立つ

これらは、まさに「AI が人を補完する」という理想的な関係の実例です。

これからの相続診断士は、「知識がある人」から、「AI を使って“伝える力”を持つ人」へと進化していきます。

エンディングノートとチェックリストという“入口ツール”から、その一歩を踏み出してみましょう。

### 第3節 相続関係説明図の作成支援（+ 登記用資料との連携）

—— AI が図を描く？ 手間のかかる「説明図」がスマートに

「先生、相続関係説明図って、必ず作らないといけないんですか？」

相続の相談現場では、こうした質問を受けることがよくあります。

相続関係説明図は、相続登記や預貯金の解約、相続手続きのあらゆる場面で必要になる“家系図+法的説明図”のような資料です。

特に法務局への相続登記申請の際には、戸籍の束をそのまま提出するより、相続関係説明図を添付した方が明確で、登記官の理解もスムーズになります。

しかし、私たち相続診断士にとって、この図の作成は思った以上に**時間と手間がかかる作業**です。家族構成が複雑だったり、再婚・非嫡出子・養子縁組などがあると、整理に時間がかかり、しかもミスが許されない。

そんなときに、**AI（とくに ChatGPT と外部ツールの連携）**を使えば、**相続関係説明図の作成支援を効率化し、正確性を高めることが可能になる**のです。

#### ■ 相続関係説明図とは？ 簡単におさらい

まずは相続関係説明図とは何かを確認しましょう。

この図は、相続人の範囲や相続関係を明確に示すために作成される資料で、以下の情報を含みます：

- ・被相続人の氏名・生年月日・死亡日
- ・相続人（配偶者・子・兄弟姉妹など）の氏名・続柄・生年月日
- ・各人物の生死・順位（代襲相続がある場合も含む）
- ・法定相続人としての関係性（線や矢印で視覚的に）

登記申請書に添付するだけでなく、相続人の間で相続関係を共有するためにも、非常に役立ちます。

#### ■ 従来の作成の課題と限界

これまでは、Excel や手書き、または司法書士用の専用ソフトを使って作成するのが一般

的でした。しかし、次のような課題がありました：

- ・戸籍の読み取り・整理に時間がかかる
- ・家系図のように構造化して図示するのに苦勞する
- ・専用ソフトは高価・操作が難しい
- ・間違いがあると、修正作業に手間がかかる
- ・複雑な家族構成（再婚・認知・養子など）への対応が面倒

こうした作業の一部を、**AI に任せることで、効率化と精度の向上が実現**できるのです。

## ■ ChatGPT で相続関係説明図の「設計書」を作る

ChatGPT は図を直接描くことはできませんが、**図に必要な「情報整理と構造の設計」を担うことができます。**

たとえば、以下のような指示を出します：

**「以下の情報をもとに、相続関係説明図を作成するための文章データ（家族構成・関係性・法定相続人の整理）を作ってください。**

**被相続人：山田一郎（昭和 20 年生まれ、令和 5 年死亡）**

**配偶者：山田花子（存命）**

**子：山田太郎（長男・存命）、山田花子（長女・既に死亡・子が 2 人）**

**山田花子の子：佐藤翔（代襲相続人・存命）、佐藤真理（代襲相続人・存命）」**

ChatGPT は以下のように構造化して出力します（一部抜粋）：

### ChatGPT 生成例（要約）：

- ・被相続人：山田一郎（死亡）
- ・配偶者：山田花子（法定相続人・配偶者）
- ・相続人①：山田太郎（長男・直系卑属）
- ・相続人②・③：佐藤翔・佐藤真理（代襲相続人、長女花子の子）
- ・山田花子（長女）は被相続人死亡以前に死亡

→ 法定相続人は、山田花子（配偶者）、山田太郎（長男）、佐藤翔・真理（代襲）

このように、**図を描くための「情報の整理と分類」が AI によって行える**ため、そのまま登記用の説明図ソフトに流し込むか、手書き・作図に起こすのも容易になります。

## ■ AI + フリーツールで図を自動生成する方法もある

ChatGPT で構造化した情報を、図としてアウトプットするには、以下のようなツールと連携する方法があります：

✂ **活用ツール例：**

- ・**draw.io (diagrams.net)**：フリーの図解作成ツール。構造化された文章をもとに家系図を作成可能。
- ・**Lucidchart**：オンラインの図形作成サービス。ChatGPT で作成した構成をもとにブロック図を作れる。
- ・**Visual Paradigm Online**：家系図テンプレートが充実。AI で出力した人物情報を入力して視覚化。

こうしたツールに、ChatGPT で作成した相続人リストや続柄情報を入力することで、「**図の下書きがほぼ完成した状態**」で相続関係説明図を作ることが可能になります。

さらに、ある程度 AI でテンプレート化できれば、複雑な構成にも応用が利くようになります。

## ■ 登記用資料との連携もスムーズに

ChatGPT で生成した相続人リストや続柄整理のデータは、そのまま登記用の申請書類や説明書、補足書類に転用することもできます。

たとえば：

- ・登記申請書の「相続人一覧」欄に記載する内容
  - ・法務局への問い合わせ時の資料準備
  - ・相続人間の説明資料として配布する「相続関係の構造図」
- など、“一度作れば多方面で使い回せる”という大きな利点があります。

また、将来的には登記ソフトや司法書士用のフォーマットとも AI 連携が進めば、**ChatGPT から出力したデータをワンクリックで図化・申請書に変換する時代**もすぐそこまで来ているでしょう。

### ■ 相続診断士が AI を使う意味とは？

このような作業は、司法書士や登記専門の士業が担うケースも多いですが、**相続診断士が“相談者との初期面談で相関図を描ける”だけで、相談者の安心感は格段に増します。**

- ・「この家族関係、複雑ですね。でも図にしてみると整理できますよ」
- ・「こうやって代襲相続になるんですね。分かりやすいです」
- ・「これなら、他の兄弟にも説明しやすいですね」

そう言ってもらえるだけで、相談者の不安は軽減され、信頼関係が築けます。

AI は「図を自動で完成させる魔法のツール」ではありませんが、**図を描くための準備や下ごしらえを完璧にサポートしてくれる相棒**として活用すれば、あなたの業務の幅と質を一段階引き上げてくれることは間違いありません。

### ■ まとめ：図作成に時間をかける時代から、“設計だけ”に集中する時代へ

これからの相続診断士は、「時間をかけて図を描く」より、「正確に情報を構造化し、AI と連携して図に落とす」時代に突入します。

#### AI を使えば：

- ・戸籍情報の整理が早くなる
- ・家族関係の分類が正確になる
- ・図のたたき台がすぐ作れる
- ・登記や説明資料にも転用可能
- ・相談者との信頼構築が早くなる

つまり、**あなたの“手間”が“信頼”に変わる道具**になるのです。

## 第4節 よくある質問（FAQ）へのAI活用

——“何度も聞かれる”を“いつでも答えられる”に変える方法

「相続税って、全員が払うんですか？」

「遺言書って、どんな紙に書けばいいんですか？」

「家族信託って、うちみたいな普通の家族でも関係ありますか？」

このような質問を、私たち相続診断士は日々繰り返し受けています。相談者にとっては初めてのことである一方、私たち専門家にとっては“よくある質問”——いわゆる「FAQ（Frequently Asked Questions）」です。

FAQ 対応は、相続相談において非常に重要なコミュニケーションの入り口です。しかし、毎回ゼロから丁寧に説明し直すのは時間も手間もかかります。説明に使う言葉選びや順序を間違えれば、かえって不安をあおることにもなりかねません。

そこで注目されているのが、**生成 AI（特に ChatGPT）を活用した FAQ 対応の自動化・効率化**です。

この節では、相続診断士が AI を使って FAQ 対応をスマートに行う方法と、その実践的メリットを、現場目線でお伝えしていきます。

### ■ FAQ 対応が重要な理由とは？

相続の相談者は、「何を聞けばいいかわからない」「誰に聞けばいいかわからない」という“モヤモヤ状態”であなたのもとを訪れます。

そこで重要になるのが、**相談者の「不安を解きほぐす情報」を、適切な順番で、やさしい言葉で提供すること**です。これによって信頼が生まれ、面談全体がスムーズになります。

FAQ は、次のような役割を果たします：

- ✓ 相談者が安心して話せる「入り口」を作る
- ✓ 誤解や思い込みを正すことで、相談の質を高める
- ✓ 回答内容を通じて、相続診断士としての専門性を伝える

しかしこの FAQ、種類も多く、内容も状況に応じて少しずつ変える必要があり、毎回同じ

説明では済みません。ここに AI が力を発揮します。

## ■ ChatGPT で FAQ を作る基本ステップ

FAQ 対応を AI で効率化するには、次の 3 ステップが基本です：

- ・よくある質問をリストアップする
- ・ChatGPT に回答文を作成させる
- ・相談者の属性に応じて調整する

では、具体的に見ていきましょう。

## ■ ステップ 1：よくある質問のリストを整理する

まずは、あなたがこれまで何度も受けてきた質問を思い出して、カテゴリごとにまとめてみましょう。たとえば：

### A. 相続全般に関する質問

- ・相続って、何を準備すればいいの？
- ・相続人って、どうやって決まるの？
- ・誰に相談すればいいかわからない

### B. 遺言書についての質問

- ・自筆の遺言書って法的に有効ですか？
- ・公正証書遺言の費用はいくらくらい？
- ・夫婦で一通の遺言書を作れますか？

### C. 相続税についての質問

- ・相続税は全員にかかるんですか？
- ・基礎控除ってどう計算するの？
- ・生前贈与との違いは？

### D. 不動産・預貯金の名義変更について

- ・家の名義を変えるには何が必要？
- ・兄弟で共有名義にできますか？

・銀行の手続きっていつまでにするの？

こうして 10～30 個程度のよくある質問をリストアップしておく、ChatGPT に依頼する際のベースになります。

### ■ステップ 2 : ChatGPT にやさしい回答を作ってもら

リストアップした質問に対して、ChatGPT に以下のように依頼します：

**「相続初心者の 50 代女性が理解できるように、  
『相続税って全員が払うんですか？』という質問に対する、やさしい日本語の回答を作ってください。難しい専門用語は使わず、会話調をお願いします。」**

すると、ChatGPT は以下のような回答を作ってくれます（一例）：

**Q : 相続税って全員が払うんですか？**

**A :**

いいえ、実は相続税を払う人は全体の 1 割くらいしかいないんですよ。

なぜかという、相続税には「基礎控除」といって、ある程度の財産までは税金がかからない仕組みがあるんです。たとえば、配偶者と子ども 2 人が相続人なら、4800 万円までは税金がかかりません。

それ以上の財産がある場合にだけ、相続税を払う必要が出てきます。

ですので、まずは「今の財産がどれくらいあるか」をざっくり把握するところから始めてみるといいですよ。

このように、ChatGPT は“人に伝える文章”を驚くほど自然な形で作成してくれます。

時間のかかる FAQ 原稿の作成も、数十秒で完了するのです。

### ■ステップ 3 : 属性ごとにカスタマイズする

ChatGPT の真骨頂は、「相手に合わせて言葉を変えてくれる」ことです。

たとえば、同じ質問でも以下のように指示を変えれば、回答のトーンや内容が自動的に調整されます。

・「80 代女性に向けて、優しく丁寧な口調で」

・「30 代の子世代が親の相続について調べているケース」

・「中小企業経営者が事業承継を検討している場合」

こうすることで、**相談者一人ひとりに合った“伝わる説明”が可能になり、信頼感が格段に向上します。**

### ■ FAQ をホームページや LINE・チャットボットに展開する

作成した FAQ は、一度使って終わりではありません。以下のように展開することで、“営業ツール”としても機能します：

- ✓ **事務所ホームページに掲載し、検索で集客につなげる**
- ✓ **LINE 公式アカウントやメールマガジンで定期配信**
- ✓ **Web チャットに埋め込み、24 時間相談の第一歩に**
- ✓ **面談前の事前配布資料にまとめて安心感を与える**

ChatGPT はこのような展開文も自動生成してくれるため、「文章作りが苦手」「時間が無い」という方にも最適です。

### ■ AI を“相談者との架け橋”として使う

私たち相続診断士が AI を使う意味は、単なる業務の効率化ではありません。**相談者の不安を、わかりやすい言葉で解消し、「この先生に聞いてよかった」と思ってもらうことこそ、本来の目的**です。

その入口にあるのが、FAQ 対応です。

AI は、あなたが蓄積してきた知識や経験を、“誰にでも届く言葉”に変換する通訳のような存在。

「伝えたいことを、伝わるようにする」このサポート役として、ChatGPT は極めて頼れるパートナーとなるのです。

### ■ まとめ：FAQ 対応は“AI が得意”な仕事の代表例

相続診断士にとって、FAQ 対応は“同じことを何度も説明する”作業になりがちですが、**AI を活用すれば：**

- ・説明の質が安定する

- ・回答の時間が大幅に短縮される
- ・相談者の満足度が向上する
- ・あなたの業務に「余白」が生まれる

そして何より、**あなたの“伝える力”を強化してくれる**のです。

ChatGPT をはじめとする AI を上手に活用すれば、「相談者に寄り添う時間を増やしながら、伝える精度も上げられる」という、相続診断士にとって理想的な相談スタイルが実現します。

## 第5節 自社ウェブサイトやブログ記事の AI 生成

—— 文章を書くのが苦手でも、あなたの専門性は発信できる

「ホームページはあるけれど、なかなか更新できていない」

「ブログをやろうと思っても、文章を考える時間がない」

「SNS 投稿は何をどう書けばいいかわからない…」

このような悩みを抱える相続診断士の方は、実は少なくありません。

しかし、相談者が「この人に相談しよう」と思うまでには、**その専門家の人柄や考え方が“見える化”されているかどうかがかギになります。**

そのために欠かせないのが、自社ウェブサイトやブログ、SNS などを通じた情報発信です。

そして今、ChatGPT などの生成 AI を活用すれば、**専門家としての知識や想いを、誰でも、簡単に、継続的に発信できる時代が到来しています。**

この節では、相続専門の相続診断士の視点から、「AI で文章をつくる」ことのメリットと実践方法について、わかりやすくご紹介していきます。

### ■ なぜ情報発信が必要なのか？

相続相談は、非常にパーソナルで繊細なテーマです。

相談者が「どの専門家に相談しようか」と考えたとき、選ばれるポイントは以下のようなものです：

- ・自分の悩みに詳しそうか
- ・難しいことをわかりやすく伝えてくれそうか
- ・話しやすそうな人柄か
- ・実績があり、信頼できそうか

こうした“目に見えない信頼感”を生み出すのが、自社サイトやブログ記事による情報発信です。

そして、特に相続というテーマは、「自分からは聞きづらい」「何を相談していいかわからない」という相談者が多いため、**まずは情報提供型の記事で“安心して相談できる入口”をつくる**ことが大切になります。

### ■でも、忙しい診断士にとって発信は難しい…

ここで立ちほだかるのが、「時間」「文章力」「ネタ」の三重苦です。

- ・平日は相談業務で手一杯
- ・専門的な話を一般向けに噛み砕くのが難しい
- ・毎回書くネタを考えるのがつらい

このような理由から、せっかくホームページを作っても、半年以上更新がない状態になってしまっている方も少なくありません。

そこで、**AI があなたの“Web 担当者”として活躍してくれるのです。**

### ■ ChatGPT にできることは？

ChatGPT は、プロンプト（命令文）さえ工夫すれば、**相続診断士の“伝えたいこと”を、わかりやすく整えた文章にしてくれます。**

例えば、以下のような依頼が可能です：

**「相続登記の義務化について、50 代の一般の方に向けて、わかりやすくブログ記事を書いてください。タイトル、導入文、見出し付きをお願いします。」**

すると、以下のような文章を数十秒で生成してくれます。

#### 【ChatGPT 生成例（抜粋）】

**タイトル：2024 年 4 月から相続登記が義務化！知らないと困るポイントとは？**

#### 導入文：

「相続が発生したけれど、登記は後回しでもいいや…」

そう思っている方は要注意。2024 年 4 月から、相続登記が“義務化”されました。今回は、

相続登記の基本と、義務化によって何が変わるのかをわかりやすくご説明します。

### **見出し 1：なぜ相続登記が義務化されたのか？**

近年、空き家問題や所有者不明土地が社会問題となっています。その背景には、相続が発生しても登記が行われないケースが多いことが原因として挙げられています。

### **見出し 2：義務化の内容と罰則は？**

相続人は、相続が発生したことを知った日から 3 年以内に登記を申請しなければなりません。これを怠ると、10 万円以下の過料が科される可能性があります。

このように、記事の骨格だけでなく、**導入文や見出しの構成まで自動的に整えてくれる**のです。

#### **■ あなたの専門性を“言語化”するパートナー**

文章を書くのが苦手な方でも、ChatGPT を使えば、自分の得意な分野や伝えたい思いを、短いメモや口語的な説明で伝えるだけで OK です。

たとえば、

**「相続人同士のトラブルを避けるためのポイントを、実体験を交えて説明したい」**

**「相談者からよくある質問に答えるシリーズを作りたい」**

**「エンディングノートの書き方について、初心者向けにガイドを書きたい」**

これらのアイデアをプロンプトとして伝えるだけで、**記事として使える文章が自動的に生成**されます。

もちろん、生成された文章は「たたき台」に過ぎません。

あなたの言葉で一部書き換えたり、実例やエピソードを加えることで、“オリジナル性の高い記事”へと仕上がります。

#### **■ ブログ以外でも活用できるコンテンツ**

ChatGPT で生成した記事は、ブログだけでなく、以下のような場面にも活用できます。

##### **✓ 自社ウェブサイトのコラム欄**

→ 事務所の専門性を示す記事を定期的に更新することで SEO 効果も期待できます。

### ✔ LINE 公式アカウントやメルマガの配信文

→ 「相続の豆知識」として定期的に配信することで、見込み客との接点を維持できます。

### ✔ チラシやパンフレットの文章作成

→ 地域イベントやセミナーに使う資料も、AI なら数分で作成可能。

### ✔ SNS 投稿の下書き

→ 短めの文章にも対応可能で、「遺言って必要？」のようなタイトルから投稿案を作れます。

## ■ AI 活用で“発信が続く専門家”になれる

実際、ChatGPT を活用して「発信の習慣化」に成功した相続診断士の方は、以下のよう  
な効果を実感されています：

- ・ブログ更新が月 1 回から週 1 回に
- ・SNS 投稿の継続がラクになった
- ・ホームページ経由の相談件数が増加
- ・セミナー参加者が「記事を読んで安心した」と言ってくれた

つまり、**発信力は集客力に直結する**のです。

そして AI を使えば、「発信し続ける専門家」というブランディングが、これまで以上に手軽に、そして継続的に実現できるようになります。

## ■ まとめ：あなたの専門性を、AI が“見える化”してくれる

相続診断士という仕事は、知識だけでなく「信頼」や「人柄」が求められる職業です。  
その信頼を築く第一歩が、日々の情報発信 = 言葉の積み重ねです。

文章を書くのが苦手でも、時間がなくても大丈夫。

ChatGPT という“あなた専属の編集者”がいれば、ブログや Web 記事の作成が驚くほどスムーズになります。

- ・あなたの専門性を形にしてくれる
- ・あなたの想いをやさしく伝えてくれる
- ・あなたの言葉で信頼を築くサポートをしてくれる

それが、**AI を活用した情報発信の新しい形**です。

ぜひ、「自分を伝える」ための発信を、AI の力で一歩ずつ始めてみてください。

ご希望があれば、ブログ記事のテンプレート集、SNS 投稿文のサンプル、実践的なプロンプト集などもご提供できます。次のセクション執筆や全体の編集もお任せください。

## 第3章 ケース別活用法（実践編）

### 第1節 ケース1：遺言書作成を検討している80代女性

——「家族のために遺しておきたい」という想いに、AIがそっと寄り添う

#### ■はじめに：よくある相談、「そろそろ遺言を書いた方がいいかしら？」

「もう年だし、そろそろ遺言書を作っておいた方がいいかしら…」

そんな風に語るのは、80代の女性・佐藤和子さん（仮名）。ご主人は数年前に他界。現在はひとり暮らし。子どもは息子と娘の2人で、それぞれ別の家庭を持ち、年に数回顔を合わせる程度。財産は自宅不動産と預貯金が中心で、そこまで複雑ではない——。

これは、私たち相続診断士が日常的に出会う“典型的なケース”のひとつです。

和子さんのような相談者は、「相続が心配」というよりも、「子どもたちが揉めないように、元気なうちに準備しておきたい」という想いを抱いて相談に来られます。つまり、**不安を解消したい**というより、“**安心を遺したい**”というニーズです。

この節では、こうした高齢女性の遺言書作成支援において、**ChatGPTをどのように活用できるか、具体的な手順や注意点を交えながら解説**していきます。

#### ■ステップ1：相談者の「想い」を引き出すためにAIが使えること

遺言書作成支援において最も大切なのは、法律や形式の前に、**相談者の想いを丁寧に聴き取り、整理すること**です。

和子さんのような方は、「誰に何をどう遺すか」を正確に理解しているとは限りません。「なんとなく、平等がいいと思ってるけど…」「お世話になってる息子に少し多めでもいいかも…」」というように、揺れていることが多いのです。

そこでまず、ChatGPTを使って以下のようなヒアリングシートを作成します：

**プロンプト例：**

**「80代の女性が遺言書を作成する際に、事前に考えておくべき質問項目を、やさしい言**

**葉で 10 個程度リストアップしてください。」**

**ChatGPT 出力例（抜粋）：**

- ・お金や財産はどこにどれくらいあるか、わかっていますか？
- ・家や土地を誰に残したいと考えていますか？
- ・お子さんやお孫さんとの関係はどうですか？
- ・これまで誰に一番お世話になったと思いますか？
- ・家族の中で心配な人、気になることはありますか？
- ・亡くなった後のことを、どのようにしておきたいですか？

このような“気持ちを引き出すヒント”を事前に準備することで、**面談の質が格段に上がり、相談者の迷いを整理するお手伝いができます。**

**■ステップ 2：遺言文案のたたき台を AI に依頼する**

相談者の意向がある程度整理できたら、次は**遺言書の文案づくり**に移ります。

もちろん、最終的な遺言は法律的な形式を満たす必要があり、公正証書にする場合は公証人の確認も不可欠です。しかし、最初の「たたき台」として AI に文案を依頼することは、非常に効果的です。

**プロンプト例：**

**「80 代の女性で、子どもが 2 人。長男には自宅を、長女には預金を相続させたいと考えています。自筆証書遺言のたたき台として、適切な文面を作ってください。」**

**ChatGPT 出力例（抜粋・簡易表現）：**

令和〇年〇月〇日

私は、佐藤和子は、次のとおり遺言します。

1. 私の所有する自宅（所在地：〇〇市〇〇町〇丁目〇番）を、長男佐藤一郎（昭和〇年〇月〇日生）に相続させます。

2.私の預貯金については、長女佐藤花子（昭和〇年〇月〇日生）にすべて相続させます。

以上の遺言を、自筆で記し、署名・押印します。

佐藤和子（署名）

印

このように AI を使えば、**ゼロから文章を考える必要がなくなり、相談者の希望に基づいた具体的なイメージを共有することができます。**

また、「このまま書けばいいんですね」と言われることもありますが、私たちは「これはあくまで下書きです。最終的には公証人の確認を通しましょうね」とやさしく伝え、安心と正確性の両立を図ります。

### ■ステップ3：家族へのメッセージも AI でサポートできる

遺言書とは別に、“家族への手紙”のような自由記述を残したいという相談者も多くいます。

とくに高齢の女性は、「子どもたちに迷惑をかけたくない」「自分の人生を感謝の気持ちで締めくくりたい」と考えている方が多く、その想いを形にすることで、自分自身の“心の整理”にもつながります。

ここでも AI は大活躍します。

プロンプト例：

「80 代の母親が、子どもたちへ感謝の気持ちを伝えるための手紙を書きたいと思っています。簡潔で、やさしい文体で手紙の例文を作ってください。」

## ChatGPT 出力例 :

親愛なる一郎、花子へ

これまで元気で過ごしてこられたのは、あなたたちのおかげです。  
それぞれの家庭を持ち、忙しい中でも私を気遣ってくれて本当に感謝しています。

自分の人生の終わりを少しずつ考えるようになりましたが、今は穏やかな気持ちで毎日を過ごしています。  
心配はしないでくださいね。

ほんの少しですが、私が遺すものが、あなたたちの役に立てば嬉しいです。  
これからも仲良く、お互いを思いやって過ごしてください。

ありがとう。  
お母さんより

こうした文章をベースに、相談者が自分の言葉で書き直すことで、よりあたたかい、心のこもったメッセージとなります。

### ■ AI 活用の注意点と診断士としての役割

もちろん、AI が作成する文章は万能ではありません。以下の点には注意が必要です :

- ✓ 文法的には正しくても、法的に不完全な場合がある
- ✓ 特殊な事情（内縁・養子縁組・認知・代襲など）には対応が甘い
- ✓ 文面に“人間らしさ”が欠ける場合がある

だからこそ、**最終的なチェックと調整は、私たち相続診断士の役割**です。

AI はあくまで“補助的なアシスタント”。それをどう使い、どう相談者に寄り添うかが、専門家としての価値を決めるのです。

## ■まとめ：AI が支える、やさしい遺言書作成支援

80 代女性の遺言書作成は、単なる法的手続きではなく、「想いを整え、家族に安心を遺すための心のプロセス」です。

AI（ChatGPT）を活用することで：

- ・相談前の準備（ヒアリングシート作成）
- ・文案づくりのたたき台提供
- ・メッセージ作成のサポート
- ・家族との共有資料の作成

といった多くの工程を“効率よく、やさしく”支援することができます。

そして何より、相談者に「この人に頼んでよかった」と感じてもらえるような、**丁寧であたたかな支援の時間を、より多く取ることが可能**になるのです。

AI は決して人に代わる存在ではありません。

むしろ、“人に寄り添う時間を増やすための、もう一人の参謀”として、相続診断士の活動を支えてくれる存在です。

次のケースでは、「相続人同士がもめている場合」における AI 活用を取り上げます。人間関係の緊張感が高い場面において、AI がどのような支援を果たせるのかを、一緒に考えていきましょう。

## 第2節 ケース2：相続人同士がもめているパターン

——「冷静な話し合い」を支えるのは、専門家とAIの“共通言語”

### ■はじめに：最も難しい相談、それが「争族」

「うちは相続で揉めたりしないと思っていたんですけどね…」

そう語るのは、長男である田中和也さん（仮名・50代）。父親が亡くなり、相続手続きが始まる中で、妹との意見が合わず、連絡も途絶えがちになってきたといいます。

不動産の扱いや遺産分割の割合、介護への貢献度、法定相続分への不満——  
相続に関するトラブルは、**感情・事実・法律が入り混じった複雑な問題**です。

私たち相続診断士は、こうした状況に直面したとき、専門家としての知識だけでなく、「対話の場を整え、冷静な話し合いに導く調整力」が求められます。

そしてこのようなデリケートな場面でも、AI、特に ChatGPT は“論点整理”と“感情の衝突を和らげる言葉の提案”という2つの視点から、私たちを強力にサポートしてくれる存在になり得ます。

この節では、相続人同士のトラブルが起きているケースにおいて、相続診断士がAIをどのように活用できるのか、その具体的手順と効果を解説します。

### ■背景の複雑さを「言語化」することが第一歩

相続トラブルの多くは、以下のような背景を含んでいます：

- ・不動産が相続財産の中心で「分けにくい」
- ・介護・扶養に対する貢献度への不満
- ・他の相続人とのコミュニケーション不足
- ・遺言書がない、あるいは曖昧な内容
- ・感情的なこじれが長年蓄積されている

こうした状態では、「誰が正しい」「どちらが間違っている」という単純な判断はできません。まず私たちがすべきは、**事実関係とそれぞれの主張を丁寧に“見える化”**することです。

このとき、ChatGPT は中立的な立場で、次のような支援を行ってくれます。

### ■ AI 活用ステップ 1 : 双方の主張を整理する「客観的文章」を作る

相続人 A と B の主張が対立しているとき、それぞれの言い分をそのままぶつけ合っても、話は前に進みません。

そこで、両者の主張を整理し、論点を明確にする「第三者的な説明文」を AI に作成させます。

プロンプト例 :

**「父の遺産を巡って、長男（介護に貢献）と長女（遠方在住・法定相続分主張）が揉めています。両者の立場を整理した文章を作ってください。相手を批判せず、事実を冷静にまとめた内容でお願いします。」**

ChatGPT 出力例（要約） :

今回の相続において、長男様はご自身が父親の介護・生活支援に長年携わってきたことをふまえ、法定相続分より多めの分割を希望されています。一方、長女様は、相続財産の内容を正確に把握したうえで、法定相続分に基づいた公正な分割を主張されています。

どちらの立場も家族としての思いや背景があるため、感情的な衝突ではなく、具体的な事実と希望を整理したうえで、冷静な話し合いが求められます。

このように、ChatGPT による“中立的な表現”は、感情のトゲを和らげ、対話のスタート地点を整えるのに非常に有効です。

### ■ AI 活用ステップ 2 : 話し合いの「論点リスト」を生成する

相続人同士の対立を解きほぐすには、「まず何から話すべきか？」という論点整理が不可欠です。

ChatGPT に以下のように依頼します。

プロンプト例 :

**「不動産が主な相続財産で、相続人同士が分割方法でもめています。話し合いで確認**

**すべき論点を、わかりやすくリストアップしてください。」**

**ChatGPT 出力例（抜粋）：**

- ・不動産の評価額（共有するか、売却するか）
- ・法定相続分と希望の相違点
- ・被相続人の介護・看護に関する貢献度
- ・他にどのような財産があるか（預貯金・保険など）
- ・現在の関係性と今後のコミュニケーションの取り方

これらを A4 一枚にまとめて、「本日はこのような項目を順に確認しましょう」と提示するだけで、**感情的な話から、建設的な対話へと軌道を修正**できます。

### ■ AI 活用ステップ 3：感情的な表現を「やさしい言葉」に変換する

相続トラブルの相談現場では、相手への不満や怒りがそのまま言葉になってしまうことがあります。

このとき、ChatGPT を“通訳”として使えば、表現をマイルドに変えることができます。

たとえば、長男の発言：

**「おれが 10 年も面倒みてきたのに、妹が半分ももらうなんて納得いかない！」**

これをそのまま相手に伝えたら対立が深まりますが、以下のように ChatGPT に依頼します。

**プロンプト例：**

**「上記の発言を、相手を責めずに自分の立場を伝える文に変えてください。」**

**ChatGPT 出力例：**

私は父の介護に長年関わってきました。その中で感じた責任感や負担も大きく、今回の相続については、そうした点も考慮してもらえたら嬉しいと感じています。

このように、AI は感情を否定せず、言葉を整えてくれる“言語のリフレーミング装置”として活用できます。

### ■ 相続診断士の役割：AI ではできない「調整」と「共感」

AI は非常に便利な道具ですが、次のような場面では人間の力が必要不可欠です。

- ・相手の表情・沈黙・ため息など、非言語的な情報を読み取る
- ・兄弟姉妹間の「昔の確執」など、背景をくみ取る
- ・一方に偏らないよう、公平性を保ったファシリテーションを行う

つまり、AI は「冷静な判断材料」を揃え、相続診断士は「感情の交通整理」を担うという役割分担が理想的です。

AI が論点を明確にし、診断士がその間を橋渡しすることで、話し合いは前に進みやすくなります。

### ■ AI があるからこそ、“落ち着いて寄り添う時間”が生まれる

感情的な対立の中では、専門家自身も疲弊しがちです。

しかし、ChatGPT を活用することで、資料作成や言葉選びの負担が軽減され、「冷静に話を聴き、ゆっくり考える時間」が生まれます。

その結果：

- ・一方的な主張に流されずにすむ
- ・双方の意見を尊重した落としどころを模索できる
- ・相談者の「納得感」を高める支援ができる

という、本来の“中立の相続診断士”としての役割を、より丁寧に果たせるのです。

### ■ まとめ：AI は“争族”を“話し合いの機会”に変える道具

相続トラブルの現場では、「家族なのに話が通じない」という苦しみが多く存在します。

しかし、AI を活用することで：

- ・客観的な整理（誰が何を言っているか）
- ・論点の明確化（話すべきことは何か）

・表現の調整（伝わる言葉に変える）

という支援が可能になり、対話の糸口が見えてくるようになります。

そして、最後にまとめるのは私たち人間、**相続診断士の“共感”と“調整力”**です。

AIは、争いをやめさせることはできません。

でも、争わなくていい道を一緒に探す“地図”を描くことはできます。

その地図を手に取り、家族の未来を選び取る支援——

それが、AIと共に歩む相続診断士の新しい姿ではないでしょうか。

### 第3節 ケース3：不動産や株など多様な財産があるケース

—— 財産の“見える化”が、対策の第一歩。AI がその整理をサポートする

#### ■はじめに：財産が多様だと、何が難しくなるのか？

「父が亡くなったのですが、何をどう分ければいいのか、全然わからなくて……」

こう語るのは、50代の女性・山口美紀さん（仮名）。父親は地元で中小企業を営んでおり、個人の資産も比較的多く、不動産、株式、預貯金、保険、自社株など、いわゆる「財産の種類が多い」ケースです。

相続財産が単純な預金だけであれば、分割も比較的スムーズです。

しかし、**財産が多様化すると、「評価」「分割方法」「流動性」など、検討すべき要素が一気に増えます。**

たとえば：

- ・不動産は換金できないうえに共有はトラブルのもと
- ・株式は価値が変動するうえ、名義変更も手間がかかる
- ・自社株があると、事業承継や相続税への影響も大きい

このようなケースでは、相続診断士が「全体像の把握」から「分割案のシミュレーション」まで、きめ細かく関与する必要があります。

そして、ここでも **AI（ChatGPT など）を活用すれば、“財産の整理”と“説明のわかりやすさ”を飛躍的に高めることができます。**

#### ■ステップ1：財産のリストアップと分類をAIで効率化

まず取り組むべきは、**財産の棚卸し**です。

相談者自身がすべてを把握しているケースはまれで、「たぶんこのくらい…」という曖昧な記憶をもとに、聞き取りを重ねていく必要があります。

このとき、ChatGPT に以下のように依頼します：

プロンプト例：

「相続財産の聞き取りに必要な項目をリストアップしてください。不動産、株式、預貯金、保険、自社株など、多様な財産を対象とし、相談者が答えやすいように、やさしい質問形式にしてください。」

ChatGPT 出力例（抜粋）：

- ・ご自宅や土地などの不動産は、どの場所にありますか？名義は誰ですか？
- ・銀行口座はいくつありますか？通帳はどこに保管されていますか？
- ・保有している株や投資信託はありますか？証券会社の口座はありますか？
- ・生命保険は加入されていますか？受取人は誰ですか？
- ・会社の株をお持ちですか？経営に関わっていますか？

これらのリストをもとに、**相談者とのヒアリングシートを作成**すれば、聞き漏れが防げ、情報収集のスピードも格段に上がります。

## ■ステップ2：財産ごとの特徴と注意点を AI で整理

次に必要なのは、**財産ごとの「特徴と留意点」**を、相談者にわかりやすく説明することです。

ここでも、ChatGPT は役立ちます。たとえば：

「相続財産としての**不動産・上場株式・非上場株式・預貯金・生命保険の特徴と注意点を、専門用語を避けて説明してください。**」

ChatGPT 出力例（要約）：

- ・**不動産**：売ったり貸したりできますが、すぐに現金化するのは難しいです。誰が住むか、どう分けるかをよく考える必要があります。
- ・**上場株式**：金額が変動します。売ることによって現金化できますが、分け方によっては税金がかかることもあります。
- ・**非上場株式**：会社の価値によって評価が変わります。事業を引き継ぐ人がいるかどうか重要です。

- ・**預貯金**：分けやすく、手続きも比較的簡単ですが、相続人全員の同意が必要です。
- ・**生命保険**：受取人が指定されていると、その人の“もの”になります。相続財産には入らない場合もあります。

このように、**専門的な知識を「平易な言葉で」相談者に説明する資料**を、AI はわずか数分で生成してくれます。

### ■ **ステップ 3：分割のシミュレーションを AI でサポート**

次のステップは、**実際の「分け方」を考える段階**です。

相談者のニーズに応じて、ChatGPT に以下のような依頼をしてみましょう：

**プロンプト例：**

「以下の財産を、**長男・長女・次男の 3 人に分けたいと考えています。それぞれに公平感のある分割案を、いくつか提案してください。**

- ・**自宅不動産：2,000 万円相当**
- ・**預金：1,500 万円**
- ・**上場株式：500 万円**
- ・**非上場株式（事業承継予定）：2,000 万円相当**」

**ChatGPT 出力例（要約）：**

#### **分割案 1（長男が事業承継）**

- ・**長男**：非上場株式（2,000 万円） + 現金 500 万円（計 2,500 万円）
- ・**長女**：自宅不動産（2,000 万円）
- ・**次男**：現金 1,000 万円 + 株式（500 万円）

#### **分割案 2（不動産を共有）**

- ・**長男**：非上場株式
- ・**長女 & 次男**：自宅を共有し、将来売却した際に分ける
- ・**現金・株式**は 3 人で均等分配

このように、AI を使えば**中立的な「たたき台」**がすぐに作成でき、**相続人同士の冷静な話し合いにつながる**のです。

## ■ステップ 4：説明資料・プレゼン資料も AI で簡単作成

分割案が決まった後、家族間の説明や専門家との連携のために、資料を整える必要があります。

ここでも AI が力を発揮します。たとえば：

**「上記の分割案を、わかりやすいプレゼン資料としてまとめてください。見出し、箇条書き、図解説明を含めた構成にしてください。」**

ChatGPT は、次のような構成を提案してくれます：

### 【プレゼン資料構成例】

1. 相続財産の全体像（財産一覧表）
2. 各財産の特徴（評価・換金性・分割の難易度）
3. 分割案のパターン（案 1 / 案 2 の比較）
4. 各相続人の取得財産と理由
5. 今後の手続きと注意点（名義変更・税務・共有リスクなど）

これをそのまま PowerPoint に落とし込めば、**専門家としての説明の質も向上し、相談者や家族の納得感も高まります。**

## ■相続診断士としての価値を高める“戦略ツール”としての AI

多様な財産を扱う相続案件では、単に「法律を知っている」だけでは不十分です。大切なのは、次の 3 つの力です：

1. 情報を整理する力（財産の棚卸し・評価）
2. 伝える力（専門用語を使わずに説明する力）
3. 決める力（相談者が納得する分割案を導く支援）

これらをサポートするツールとして、ChatGPT はまさに「相続診断士の戦略パートナー」になり得ます。

## ■まとめ：複雑な相続こそ、AI を活かして“整理と見える化”を

不動産、株、自社株、保険、預金――。

財産が多様になればなるほど、相続の難易度は高まり、相談者の不安も大きくなります。

でも、ChatGPT などの AI を活用すれば：

- ・財産のヒアリングがスムーズになる
- ・専門的な内容を平易な言葉に変換できる
- ・公平な分割案の“たたき台”が短時間で作れる
- ・資料作成や説明の効率が大幅アップする

そして何より、**相談者が「わかった」「納得できた」と感じる瞬間が増えていくのです。**

複雑な相続を、相談者にとって「納得できる道筋」へと導くために。

AI は、相続診断士の手にある最も心強いツールのひとつになっていくでしょう。

## 第4節 ケース4：事業承継を含む相続相談

——“想い”と“経営”を次世代に継ぐために、AIが支える論点整理と未来設計

### ■はじめに：「会社をどうするか」が相続を難しくする

「そろそろ子どもに会社を継がせたいけれど、どう進めたらいいのかわからない」

「相続と事業承継って、何が違うんですか？」

これは、地方の中小企業経営者である60代～70代の方から、相続相談の場でよく聞かれる言葉です。

事業を営む経営者にとっての相続は、単なる財産の引き継ぎではありません。

**会社の未来、人材の問題、資産の分割、家族間の関係性、税務対策**など、複数の問題が絡み合い、相続の難易度を大きく上げる要因となります。

このような「事業承継を含む相続相談」では、相続診断士が単独で対応するのではなく、税理士・司法書士・中小企業診断士などの専門家と連携しながら、**全体像を整理し、計画的に解決策を導く調整役**としての働きが求められます。

そして、この“複雑な全体像の整理”において、**生成 AI（とくに ChatGPT）は極めて有効なツール**となります。

この節では、事業承継を含む相続相談において、相続診断士が AI をどう活用し、経営者の意思決定をサポートしていくかを、実践的な視点で解説します。

### ■事業承継×相続の主な論点とは？

まず、事業承継を含む相続相談で整理すべき主要な論点は、次のような項目です。

1. 事業資産（自社株、不動産、設備）の扱い
2. 後継者の決定と育成状況
3. 非後継者（他の相続人）との公平性の確保
4. 代表者個人の財産（預貯金、保険、投資資産など）の分配
5. 相続税・贈与税・株式評価額などの税務対策
6. 遺言書や株主総会決議などの法的整備

## 7.経営のビジョンや想いの継承（経営理念や地域との関係性など）

これらの情報を関係者に分かりやすく伝え、話し合いの土台を整えることが、相続診断士の大切な役割です。

そして、その“土台”を素早く整えるために、ChatGPT が活用できます。

### ■ステップ 1：相談前の論点リストを AI で自動生成

まず最初に、経営者やご家族にヒアリングする際、話を漏れなく、感情的にならずに進めるための「論点リスト」が必要です。

ChatGPT に以下のように依頼します：

プロンプト例：

「中小企業を経営している 70 代男性の相続相談を行います。後継者は長男と決まっているが、長女と次男が納得していない様子です。事業承継と財産分割を一体的に検討する必要があります。この相談において確認すべき論点を、分かりやすくリストアップしてください。」

ChatGPT 出力例（抜粋）：

- ・自社株の評価額と相続税評価の確認
- ・自社株を長男に集中させる際の他の相続人との調整方法
- ・長女・次男に対する代償分割や保険の活用の検討
- ・自社の不動産が会社名義か個人名義かの確認
- ・遺留分侵害が発生しないような対策の有無
- ・経営権（代表権、議決権など）の移行手続き
- ・遺言書の作成有無とその内容の明確性
- ・相続税納税資金の準備（長男が株を取得した場合の納税方法）

このようなリストがあるだけで、**面談前の準備が整い、聞き漏れや認識のズレを防ぐ**ことができます。

## ■ステップ 2：後継者と非後継者の分配案をシミュレーション

次に問題になるのが、後継者とそれ以外の相続人の“公平感”をどう確保するかです。自社株や事業用不動産は、簡単に分けられないため、分割案のたたき台作成が重要になります。

プロンプト例：

「自社株 2,000 万円相当、不動産 1,500 万円、預貯金 1,000 万円、保険金 500 万円の財産があります。長男が会社を継ぐ前提で、長女と次男とのバランスを考えた分割案を複数提示してください。」

ChatGPT 出力例（案 1）：

- ・長男：自社株 2,000 万円（事業承継） + 保険金 500 万円（納税資金）
- ・長女：不動産 1,500 万円
- ・次男：預貯金 1,000 万円

案 2（代償分割を活用）：

- ・長男：自社株 2,000 万円
- ・長女：預貯金 500 万円 + 代償金 500 万円
- ・次男：不動産 1,500 万円

このように、「感情を挟まず、数字で話せるたたき台」を用意できることは、相続人間の対話を前進させる大きな武器になります。

## ■ステップ 3：経営の“想い”を言語化する支援にも AI が使える

事業承継では、単に財産を分けるだけでなく、経営者としての信念やビジョンを、次の世代にどう伝えるかも重要な要素です。

しかし、「言葉にするのは苦手だね…」と語る経営者も多いのが現実。そこで、ChatGPT に“経営理念の下書き”や“感謝の手紙”を依頼することができます。

プロンプト例：

「長年会社を経営してきた父が、後継者の息子に想いを伝える手紙を書きたいと言っています。『地域に根差した経営』『社員への感謝』『家族の支え』をキーワードに、柔らかく

て誠実な文章の例文を作成してください。」

#### ChatGPT 出力例（抜粋）：

一郎へ

これまでの人生を振り返ると、会社を立ち上げた当初の不安や、地域のお客様に支えられてきた感謝の気持ちで胸がいっぱいになる。

お前が会社を継ぐと決めてくれたことは、本当に嬉しく思っている。

社員たちも家族のような存在だ。どうか、彼らを大切にしながら、自分の色で経営をしてほしい。

会社は道具ではない。人と想いの積み重ねだということを、忘れずに。

父より

こうした文面は、**遺言書では伝えきれない“人としての想い”を形にする**上で、非常に効果的です。

#### ■ステップ 4：専門家との連携メモやレポート作成も AI で効率化

相続診断士は、相談者とだけでなく、税理士・司法書士・公証人・社労士などと連携しながら事業承継支援を行う必要があります。

その際に必要なのが、**相談内容の整理メモ、引き継ぎ報告書、提案書の作成**です。これらも、ChatGPT に依頼すれば時短が可能です。

「上記の分割案と、相談者の希望内容を A4 一枚にまとめてください。専門家との共有メモとして活用したいので、要点を箇条書きでお願いします。」

このようにすれば、**事務作業の負担を大幅に減らし、より“調整役としての本質的な時間”に集中**できます。

#### ■まとめ：AI は「複雑な相続」にこそ力を発揮する

事業承継を含む相続は、多くの論点と感情が交錯する、極めて難易度の高い相談分野です。

だからこそ、**情報を整理し、感情を言語化し、関係者をつなぐ“設計と対話”**が求められます。

その“設計”と“対話”の補助役として、AI は次のような効果をもたらします：

- ✓ 論点の整理と資料作成の効率化
- ✓ 感情的表現のマイルドな言語変換
- ✓ 分割案のシミュレーション
- ✓ 経営理念や感謝の言葉の言語化支援
- ✓ 専門家との連携資料の自動作成

そして、AI によって生まれた“時間と心の余裕”こそが、相続診断士としての本質的な価値を発揮する土壌になるのです。

**事業を継ぐことは、想いを継ぐこと。**

AI は、その“想いの橋渡し”を支える、新しい相棒となるでしょう。

## 第4章 AI を使いこなすためのスキルと心構え

### 第1節 プロンプト（AI への指示）の工夫

——「聞き方」で AI の答えが変わる。相続診断士に必要な“問いの技術”

#### ■はじめに：「AI は使えるか？」より、「どう使うか？」の時代へ

ChatGPT などの生成 AI を日常業務に取り入れていく中で、多くの相続診断士が感じる疑問がひとつあります。

**「同じ AI を使っているはずなのに、人によって出てくる回答の質が全然違うのはなぜ？」**

その答えは、非常にシンプルです。

**AI にどのような“プロンプト（指示文）”を与えるかによって、結果の質が大きく変わるからです。**

つまり、AI 活用の鍵は、「質問力＝プロンプトの工夫」にあるのです。

プロンプトとは、AI に対して「こういうことを、こういう条件で、こういう形で答えてね」と伝えるための“依頼文”です。

私たち相続診断士が、相談者の話を丁寧に聞き、背景や目的を汲み取ってアドバイスをを行うように、**AI に対しても、丁寧に明確な依頼を行えば、よりの確で実用的な回答が得られます。**

この節では、相続専門の相続診断士として、どのようにプロンプトを工夫すれば、実務で使える AI の答えが得られるかを、実例を交えてわかりやすく解説します。

#### ■AI に「何をしてほしいか」を明確にする

AI は万能ではありません。「察する」こともできません。

そのため、まず大切なのは、**自分が AI に“何を求めているのか”を、具体的に伝えること**です。

たとえば、次のような違いがあります：

**✕悪い例：**

「相続についてまとめて」

➡ 回答は曖昧で広すぎる内容になります。

**○良い例：**

「50代の女性が親の相続について考え始めたとき、最初に知っておくべきポイントを3つ、やさしい言葉で教えてください」

➡ 相談者の属性、目的、トーン、構成が明確になり、実用的な答えになります。

このように、相手（＝AI）に「誰のために」「何のために」「どういう形で」答えてほしいのかを明示することが、良いプロンプトの第一歩です。

## ■プロンプト作成の5つの基本ポイント

相続診断士が実務で使える“プロンプト作成の基本構造”は、以下の5つの視点です：

項目	内容の説明
① 目的	何のための文章か？（相談用？説明用？集客用？）
② 対象	誰に向けた内容か？（高齢者？子世代？経営者？）
③ 形式	どんな形で出力するか？（文章？箇条書き？Q&A形式？）
④ 条件	使う言葉やトーン（やさしい日本語で？専門用語を避けて？）
⑤ 具体性	財産の種類や状況など、詳細な前提条件を加える

### ◆プロンプトの例（相続相談のFAQ作成）

「60代の女性が『相続税は全員が払うの？』と質問した場合に、相続診断士としてやさしく答える文章を作ってください。専門用語を使わず、3段落程度でお願いします。」

このように依頼すれば、具体的かつ相談現場で“そのまま使える回答”が出てきます。

## ■ 相続実務でよく使うプロンプト例（カテゴリ別）

### 【1】ヒアリング準備

「80 代の男性に、遺言書を作る前に考えておいてほしいことを、やさしい質問形式で 10 項目リストアップしてください。」

➡ 面談前のチェックリストとして活用可能。

### 【2】説明文作成

「相続登記の義務化について、50 代の一般女性が理解できるように、やさしい言葉で解説文を作ってください。」

➡ セミナー資料やブログ記事に転用可能。

### 【3】FAQ の作成

「『家族信託と遺言ってどう違うの？』という質問に対して、相談者にわかりやすく説明する Q&A 形式の文章を作ってください。」

➡ よくある質問対応に活用。

### 【4】提案書・報告書の下書き

「以下の財産状況に基づき、3 人兄弟の公平な遺産分割案を箇条書きで 3 案出してください。

財産：自宅 2,000 万円、預貯金 1,500 万円、株式 500 万円。長男が親と同居中。」

➡ 提案資料のたたき台が即完成。

### 【5】感情的な表現のマイルド化

「『私が親の介護を全部やったのに、他の兄弟と同じ相続なんて納得いかない！』という言葉

を、相手を傷つけずに伝える表現に書き直してください。」

➡ 家族間の対立時のファシリテーションに役立つ。

## ■プロンプトを“段階的に”育てる

ChatGPT は、一回の指示で完璧な回答が出るとは限りません。  
むしろ、「段階的に深掘りしていく」ことで、AI の答えの質がどんどん良くなるのが特徴です。

たとえば：

### STEP1：ざっくり聞く

「相続トラブルを防ぐためのポイントを教えて」

↓

### STEP2：対象を絞る

「高齢の親をもつ 50 代の子どもが、相続でもめないように準備すべきことを教えて」

↓

### STEP3：形を指定する

「上記の内容を、チェックリスト形式でまとめてください」

↓

### STEP4：トーンを調整

「相談者向けに、やさしい語り口で書いてください」

このように、AI を“対話しながら使う”感覚が大切です。

## ■プロンプト例と成果物の“セット保存”がオススメ

良いプロンプトを作成できたら、そのまま忘れてしまうのはもったいない！  
AI を使いこなすコツは、「使ったプロンプトと、その結果（AI の出力）をセットで保存する」ことです。

ノート、Excel、Notion、メモアプリなど、自分に合った形で保存しておけば、次回からすぐに再利用できます。

おすすめ保存例：

使用シーン	プロンプト	結果の活用法
面談前準備	高齢者向け遺言作成の質問リスト	ヒアリングシート作成に
よくある質問	相続税の基礎控除の説明文	FAQ ページ作成に
分割提案	自宅 + 預金 + 株の公平な分割案	家族会議用資料に

## ■まとめ：AIの性能は「プロンプトの質」で決まる

AIを使ううえで、最も重要なのは「どう質問するか＝プロンプトの工夫」です。

プロンプトは、相続診断士の“問いの力”を映し出す鏡のようなもの。  
相談者から聞き出す力、相手に伝わる言葉を考える力——そうした**専門家としての対話力こそ、AIを“使いこなす力”になるのです。**

今後AIがますます進化しても、プロンプトを考える力＝人間の創造性とコミュニケーション力の価値は決して失われません。

相続診断士がプロンプト力を身につければ、AIは最良の補佐役になってくれます。  
ぜひ、“問いの技術”を日々の業務に取り入れ、AIとともに、より良い相続支援を実現していきましょう。

## 第2節 注意すべき落とし穴と倫理的配慮

——「便利さ」の裏にあるリスクと、「信頼される専門家」としての姿勢

### ■はじめに：AIは「魔法の道具」ではない

ChatGPTをはじめとする生成AIの登場は、相続診断士にとってまさに“革命”といえる変化をもたらしました。

面談準備、説明資料の作成、FAQの生成、分割案のたたき台作成など、これまで手間と時間がかかっていた業務が、短時間で正確に、しかも誰にでも再現可能な形でこなせるようになったのです。

しかし、ここで気をつけなければならないのが、「AIは万能で正しいものだ」という誤解と、依存によって起こる落とし穴」です。

AIはあくまで“道具”であり、**私たちの判断や倫理観を補完するものであって、代替するものではありません。**

相続という人の人生と家族の未来に深く関わる仕事において、AIを活用する際に私たちが持つべき「注意」と「配慮」について、この章で掘り下げていきます。

### ■1. 「AIが言っているから正しい」と思い込まない

最も基本的であり、最も危険な落とし穴が「AIが出した答え＝正解だ」とってしまうことです。

生成AIは、確かに人間が驚くほど自然で説得力のある文章を生成してくれます。しかし、**その根拠は統計的な言語パターンに基づいたものであり、法律や制度を正確に理解しているわけではありません。**

特に相続実務においては、以下のような点で注意が必要です：

- ・相続税法や民法の**改正に追いついていない可能性がある**（例：相続登記の義務化など）
- ・地方自治体ごとの実務運用や、家庭裁判所の判断基準には対応していない
- ・判例や細かい法的ニュアンスを読み取ることはできない
- ・相談者の家庭環境や感情の機微までは反映できない

つまり、AI の回答を“たたき台”や“参考意見”として捉え、最終的な判断や助言は必ず専門家である自分が責任を持つという姿勢が必要です。

## ■ 2. 個人情報の取り扱いには細心の注意を

相続相談は、非常にセンシティブな個人情報を扱う分野です。

- ・家族構成、財産の内訳、過去のトラブル、相続人の人間関係…
- ・財産評価、介護履歴、養子縁組、内縁関係など、プライバシー性の高い情報

このような情報を、そのまま AI に入力してしまうのは非常に危険です。

たとえば、ChatGPT などの AI サービスは、利用規約によって「ユーザーの入力内容を学習に使うことがある」とされている場合があります。

これにより、意図せず相談者の個人情報が AI の学習データに組み込まれてしまう可能性があるのです。

そのため、次のような配慮が必要です：

- ✓ 実名や住所、口座情報などは入力しない
- ✓ 仮名やイニシャルに置き換えて使う
- ✓ 実務で使う場合は、セキュリティ対応済の業務用 AI を使う（例：法人向け ChatGPT、セキュリティ強化されたクラウド AI など）
- ✓ 相談者の同意なく AI を使って文章を生成・保存しない

AI の活用によって専門家としての信用を損なわないよう、個人情報保護への姿勢はこれまで以上に問われる時代になったといえるでしょう。

## ■ 3. “人の気持ち”を AI に任せすぎない

生成 AI は、論理的な説明や書類の草案には非常に優れていますが、相続現場における“感情のケア”には対応できません。

たとえば、

- ・「親が遺言を残してくれなかったことに対する寂しさ」
- ・「兄弟間の不公平感に対する怒りや悔しさ」
- ・「親の介護を一人で担った人のやるせなさ」

こうした感情に寄り添うのは、AIではなく、**対話と共感をもって接する“人間としての専門家”の役割**です。

AI を使うことで業務が効率化される一方で、相談者とじっくり向き合う時間や、言葉にならない想いを汲み取る姿勢こそが、今後の相続診断士に最も求められるスキルになるでしょう。

#### ■ 4. 著作権・情報の出所に関する意識も必要

AI は、インターネット上の膨大な情報をもとに学習していますが、その情報の「出所」や「正確性」は明示されません。

また、AI が生成した文章が、他人の著作物と酷似している可能性もあります。

- ・自分のブログや書籍に AI が作った文章をそのまま掲載していいのか？
- ・生成された画像や図表に著作権はあるのか？
- ・自分の名で発信する情報として、倫理的に問題はないか？

こうした問いに対しては、まだ社会全体として明確なガイドラインが整っているとは言い難いのが現状です。

したがって、相続診断士としては次のような対応が望まれます：

- ✓ AI が生成した内容は「参考情報」として使い、必要に応じて自ら修正・監修を加える
- ✓ 専門家としての見解や体験談など“自分の言葉”を必ず添える
- ✓ AI に生成させたコンテンツを使う場合は、その旨を明示する（透明性の確保）

AI を「文章製造機」として安易に利用するのではなく、“**専門性を発信するための補助ツール**”として活用する姿勢が大切です。

#### ■ 5. AI との共存時代に求められる「専門家としての倫理観」

相続診断士は、国家資格である行政書士や中小企業診断士、FP などと異なり、民間資格としての立場にあります。

だからこそ、私たちが相談者から信頼され、専門家としての価値を維持していくには、**技術以上に“姿勢”と“信頼性”が問われる**のです。

AI という便利なツールが身近になった今だからこそ、以下の倫理的姿勢を改めて確認しましょう：

- ・相談者の立場に立った言葉を使うこと
- ・AI の限界と可能性を自ら理解し、正しく説明すること
- ・「自分の判断を放棄しない」専門家としての責任を持つこと
- ・「人を幸せにする」ことが、相続支援の本質であることを忘れないこと

AI の活用が進めば進むほど、“人にしかできないこと”の価値が浮き彫りになっていきます。それはすなわち、対話、共感、倫理、判断、そして信頼を築く力です。

### ■まとめ：AI 活用は、技術であり、態度でもある

AI は相続診断士にとって、間違いなく大きな味方となる存在です。ただし、その活用には技術的な理解と、倫理的な自覚の両方が欠かせません。

AI に「頼る」のではなく、「活かす」

AI に「置き換える」のではなく、「補完する」

その違いを意識できる専門家こそが、これからの時代に求められる“信頼される相続診断士”となるでしょう。

人の人生に関わる仕事だからこそ、AI という力を正しく使い、よりよい相続支援を提供していきましょう。

### 第3節 「AI が間違うとき」をどうフォローするか

——信頼される専門家として、AI との“正しい距離感”を持つために

#### ■はじめに：AI は“嘘をつくことがある”

ChatGPT をはじめとする生成 AI は、まるで人間のように自然な文章を作り出し、私たちの仕事を劇的に効率化してくれる便利な存在です。しかしその一方で、使っていく中でこうした経験をしたことはないでしょうか？

- ・もっともらしいことを書いているけど、よく調べると間違っていた
- ・存在しない法律や制度を勝手にでっちあげていた
- ・明らかに矛盾した説明をしていた
- ・日本の相続制度にそぐわない内容が書かれていた

そう、AI は「**自信満々に間違える**」ことがあるのです。

相続診断士という“人の人生と財産に関わる専門家”である私たちにとって、この事実を正しく理解し、**AI の間違いをどのように見抜き、フォローするか**という視点は、AI 活用以上に重要なスキルといえるでしょう。

この節では、相続専門家として AI を活用する中で直面する「誤回答」「誤情報」「勘違い」のパターンと、それにどう対処すべきかを実務的に解説します。

#### ■1. なぜ AI は間違えるのか？

まず知っておきたいのは、「AI はなぜ間違えるのか？」という根本的な理由です。ChatGPT などの生成 AI は、以下の特徴を持っています：

- ・インターネット上の膨大な文章をもとに、「それっぽい答え」を出しているだけ
- ・法律や制度を“正しく理解”しているわけではない
- ・「わからないことはわからない」と言えず、“それらしく話をつくる”ことがある
- ・最新の法改正や制度変更には追いついていないことがある（知識の更新が限定的）

このため、たとえ丁寧にプロンプト（指示）を出したとしても、**生成された回答が 100% 正しいとは限らない**のです。

## ■ 2. 相続業務でよくある“AI の間違いパターン”

### ✓ 誤解されやすい用語の説明ミス

たとえば、「法定相続分」と「遺留分」の違いを正確に説明できていない、あるいは混同しているケース。

### ✓ 存在しない法律の引用

「2022 年の民法改正により〇〇が義務化された」といった、まったく存在しない改正内容を AI が“創作”してしまうケース。

### ✓ 税制に関する計算ルールのミス

相続税の基礎控除や小規模宅地特例の説明で、実際の税法と異なる計算式が出てくる場合があります。

### ✓ 海外制度との混同

日本の制度と、米国や欧州の制度がごちゃ混ぜになったような説明がされることもあります。

## ■ 3. “AI の答え”を鵜呑みにしない、3 つのフォローポイント

相続診断士として AI を活用する際には、必ず以下の 3 点を意識することで、誤情報から相談者を守ることができます。

### ① 必ず一次情報で裏取りする

AI が作った文章は「下書き」として扱い、最終的な内容は必ず以下のような一次情報で確認します：

- ・法務省、国税庁などの公式サイト
- ・最新の法令データベース
- ・信頼できる専門書や実務マニュアル
- ・類似事例の判例集など

ChatGPT の答えが正しいかどうかは、「人間の専門家としての目」でチェックすることが不可欠です。

### ② AI に「根拠を求める」習慣を持つ

プロンプトを出すときに、以下のように指示を加えることで、AI に検証の視点を持たせられます：

**「この説明に根拠となる法律条文を添えてください」**

**「出典を明示したうえで、概要を説明してください」**

**「誤解しやすい点も補足してください」**

これにより、回答の“信頼性”を自分で評価しやすくなります。

### ③ “人間としての目線”で読み直す

たとえ内容が正しくても、以下のような点は AI が気づきにくいので、必ず自分でチェックします：

- ・言葉遣いが冷たく感じられないか
- ・説明の順序がわかりやすいか
- ・誤解を招く表現や不要な専門用語が含まれていないか
- ・最終的には、「相談者の目線」で文章を見直す力が求められます。

## ■ 4. 相談者に AI を使っていることをどう伝えるか？

AI の活用が当たり前になっていく中で、相談者から次のように聞かれることも増えてくるでしょう。

**「これって AI が書いた文章なんですか？」**

**「先生が全部考えてくれたんじゃないんですか？」**

このようなときは、**AI の使用を隠す必要はありません。むしろ、AI と専門家の役割をしっかりと説明することが信頼につながります。**

たとえば、次のように答えると良いでしょう：

**「実は、最近では AI も活用しながら、お客様にとってわかりやすい説明資料を素早くご用意しています。ただし、AI が出した内容は必ず私が確認し、必要があれば修正して、責任をもってご説明していますのでご安心ください。」**

このように、「AI は補助的なツールであり、最終的な判断と説明は自分がしている」という

姿勢を示すことが、信頼関係の構築につながります。

## ■ 5. 「間違った情報を相談者に渡してしまったとき」の対応

どれだけ気をつけていても、AI が出した情報をそのまま相談者に渡し、後から「誤りだった」と気づくこともあり得ます。そのようなとき、最も大切なのは以下の 2 つです。

### ✓ すぐに訂正・謝罪する

小さなミスでも、「すみません、先日お伝えした内容に誤りがありました。改めて正しい情報をお伝えさせていただきます」と、誠意を持って対応することが信頼維持の鍵です。

### ✓ 自分の責任として説明する

「AI が間違えたので…」ではなく、「最終的に確認不足だった私の責任です」と伝えることが、専門家としての姿勢です。

AI が便利になればなるほど、「最後に責任を持つのは人間である」という原則を、私たちは忘れてはいけません。

## ■ 6. 「間違える AI」とどう付き合っていくか？

AI は、人間以上に速く、たくさんことができますが、「間違える」「感情がない」「背景を読めない」という限界を持った存在です。

それでも、AI は今後も私たちの業務の中心的なツールになっていくでしょう。

だからこそ、私たち相続診断士は、「AI が間違えることを前提に、どう使いこなすか」という視点を持つ必要があります。

それはちょうど、「辞書は便利だけど、意味を鵜呑みにしてはいけない」「ナビは助かるけど、道を見失うこともある」というのと同じです。

### ■ まとめ：「AI は間違える」を前提にするプロフェッショナルであれ

相続の相談者は、正しい情報だけでなく、「信頼できる人」からの説明を求めています。だからこそ、私たち相続診断士は、以下のような姿勢で AI と向き合う必要があります。

- ・AI の答えをそのまま信じず、検証する
- ・間違いを見抜き、訂正する責任を持つ

- ・相談者には、AI も使いつつ専門家が監修していると丁寧に伝える
- ・ミスがあったときは、隠さず、誠意を持ってフォローする

“AI を使える診断士”ではなく、“AI を使いこなせる診断士”になることが、これからの時代に求められるプロフェッショナルの姿です。

AI が間違うとき、私たちはどうするか——。  
その対応力こそが、専門家としての「信用」をつくっていくのです。

## 第 5 章 未来を見据えた相続支援

### 第 1 節 相続に関する AI サービスの進化予測

——「情報提供」から「信頼のパートナー」へ。AI はどこまで進化するのか？

#### ■ はじめに：「AI と相続」が、ここまで身近になるとは思わなかった

ここ数年で、ChatGPT をはじめとする生成 AI が急速に普及し、私たち相続診断士の仕事の中にも、AI という存在が“当たり前”に入ってくるようになりました。

- ・面談前の準備に AI を使う
- ・FAQ の作成や説明文を AI に任せる
- ・遺言書のたたき台や分割案の整理も AI に手伝ってもらう

これらは、ほんの数年前には考えられなかった光景です。

しかし、これは“始まり”にすぎません。今後 AI は、私たちの想像を超えるスピードで進化し、相続支援の在り方を根本から変えていくでしょう。

この節では、「これから AI はどう進化するのか？」「それによって相続支援はどう変わるのか？」というテーマを、相続診断士の視点で、わかりやすく展望していきます。

#### ■ 1. 「相続の相談窓口」が AI になる時代

今後、相続に関する AI サービスは、より高度で、より“人に寄り添う形”へと進化していくと考えられます。

たとえば、以下のような変化が起きると予測できます。

##### ✔ 会話型の相続 AI コンシェルジュの登場

現在でも、チャットボットや LINE での簡単な相談受付は存在しますが、今後は「AI が相続の初回相談を対話形式で行い、相続人の状況や財産の概要を整理する」ということが現実になります。

相談者がスマホに向かって話しかけるだけで：

- ・「ご家族構成を教えてください」
- ・「現在の財産の内容についてわかる範囲でお答えください」
- ・「遺言書の有無や、将来の不安について教えてください」

といったヒアリングをAIが自動で行い、初期診断を済ませた上で、専門家に引き継ぐ仕組みが整備されるでしょう。

これにより、相続診断士は「最初の聞き取りにかかる時間を大幅に短縮でき、より本質的な支援に集中できる」ようになります。

## ■ 2. 相続財産の自動整理と可視化ツールの高度化

相続業務の中で最も時間と手間がかかるのが、「財産の棚卸し」と「分割のシミュレーション」です。

今後は、以下のようなAIツールの進化が期待されます：

### ✓ 銀行・証券口座・不動産情報との連携による“自動棚卸し”

マイナポータルや金融APIと連携することで、相談者の許可のもと、AIが財産情報を自動収集し、リアルタイムで一覧化できる時代がやってきます。

### ✓ AIによる「財産マップ」の自動作成

現在のようにExcelや手書きで財産リストを作るのではなく、AIが家系図と連動して、誰がどの財産に関わっているかを図示してくれるようになります。

### ✓ 分割案のシミュレーション機能の進化

「公平性」「税負担」「分割後のトラブル回避」などを総合的に判断して、AIが複数のシナリオを提示。各案における税額や感情面のリスクなども可視化されるでしょう。

これにより、相続人間の話し合いがより冷静に、かつ合理的に行えるようになります。

## ■ 3. 「感情の橋渡し」にもAIが関与する時代へ

相続は“財産の問題”であると同時に、“感情の問題”でもあります。

兄弟間の確執、親への想い、介護への不満——その背景にある感情が、相続を複雑にしています。

これまでは人間だけが担っていた「感情のケア」にも、AI が一部関わるようになって考えられます。

#### ✔ 感情分析 AI の進化

相談時の発言、文章、声のトーンなどから、AI が相談者の感情状態（不安・怒り・悲しみ）を推定し、診断士にフィードバックを与える仕組みが実現する可能性があります。

#### ✔ カウンセリング文例の自動生成

「怒りを和らげる言い回し」「不安を安心に変える表現」などを AI が提案し、相続人間のコミュニケーションをスムーズにする手助けが可能になります。

#### ✔ 想いを継ぐ AI レター支援

たとえば、亡くなる前に「家族への手紙」を AI が共感的に文章化し、遺言とは別に“気持ちの整理”を支援するようなサービスも生まれるかもしれません。

これにより、相続診断士は「法律や制度の専門家」にとどまらず、「家族の想いの通訳者」としての役割を、より深く担っていくことになります。

### ■ 4. 「つながる AI」時代の到来：各専門職とのシームレス連携

相続は、相続診断士だけで完結するものではありません。司法書士、税理士、弁護士、行政書士、不動産業者、保険会社など、多くの専門職が関わります。

今後の AI サービスは、こうした複数の専門家と「つながる」形で進化していきます。

#### ✔ 連携型プラットフォームの構築

一つの相談案件を、各専門家が共同で進めるための AI プラットフォームが登場するでしょう。

- ・財産情報、家系図、相続人の希望がリアルタイムで共有
- ・各専門家がそれぞれの視点から助言し、全体設計を AI が補完
- ・相続診断士が“窓口役”として全体をコーディネート

#### ✔ 申請書・契約書類の自動生成と提出支援

AI がヒアリング内容をもとに、公正証書遺言の原案、登記用書類、相続税申告書の下書きまで自動作成。

必要な情報を一度入力すれば、各士業への連携が一気通貫で行える仕組みです。

相続診断士は、相談者の「入り口支援」だけでなく、「専門家チームの司令塔」としての立場がより重要になっていくでしょう。

## ■ 5. 相続診断士の未来の役割とは？

AI が進化すればするほど、「人間にしかできない仕事」が明確になります。  
その中で、相続診断士が担う未来の役割とは、次のように変化・深化していくと考えられます。

### ✓ 「制度の解説者」から「家族の関係調整役」へ

情報提供は AI が担い、相続診断士は人間関係の交通整理や、感情のフォローに注力する時代へ。

### ✓ 「書類作成者」から「意志の翻訳者」へ

遺言や財産の分け方だけでなく、「この家族はどんな未来を望んでいるのか？」を言語化する役割が求められます。

### ✓ 「一人の専門家」から「相続支援チームの中核」へ

AI プラットフォーム上で多職種をまとめる“プロジェクトマネージャー”としてのスキルが重要になります。

AI が多くの業務を代替する時代だからこそ、相続診断士には“人間らしさ”に軸足を置いた支援力がますます求められていくのです。

## ■ まとめ：AI が変えるのは“相続手続き”だけではない。“相続の未来”である

今後、相続に関する AI サービスは、以下のような方向に進化していくと予想されます：

- ・情報整理と対話の AI コンシェルジュ化
- ・財産と家族関係の可視化ツールの高度化
- ・感情に配慮した AI のサポート
- ・多職種連携を支える AI プラットフォームの整備

その中で、私たち相続診断士がすべきことは、「AI に任せること」と「人にしかできないこと」を見極めながら、より深く、よりあたたかく、家族に寄り添う支援を進化させていくことです。

未来はもう、始まっています。

AI とともに、“新しい相続支援”の時代を、私たち自身が創っていきましょう。

## 第2節 相続診断士が AI と共に歩む新たなビジネスモデル

——「相談対応型」から「価値提供型」へ。AI と共に創る相続支援の未来

### ■はじめに：AI 時代に、相続診断士の立ち位置が変わる

かつて相続相談は、「専門家に聞きに行かなければ情報が得られない」という時代でした。しかし今は違います。

インターネットで検索すれば、相続に関する情報は無数に出てきます。さらに、ChatGPT などの生成 AI に尋ねれば、ある程度わかりやすい説明もすぐに得られる時代です。

では、そんな時代に、相続診断士はどう存在価値を示していけばよいのでしょうか？

その答えの一つが、「AI と共に価値を届けるビジネスモデル」への進化です。

相続診断士が AI と手を取り合うことで、従来の相談対応型から脱却し、「体験」「安心」「未来設計」を提供する専門職業人としての新しい立場を築いていくことが可能になります。

この章では、AI と共に歩むことで生まれる、相続診断士の新しいビジネスモデルのあり方を、実践的にご紹介します。

### ■ 1. 「相談業」から「仕組み提供業」へ

従来の相続支援は、以下のような“単発的”な相談が中心でした。

- ・遺言書を作成したい
- ・相続税がかかるか知りたい
- ・家族がもめないようにしたい

しかし、AI の登場により、これらの「情報を得たい」「文章を整えたい」というニーズは、ある程度 AI で代替できるようになりました。

だからこそ、これからの相続診断士には、「一回限りの相談」ではなく、「一人ひとりに合わせた支援の“仕組み”や“流れ”を設計・提供する役割」が求められます。

✓ 例：AI と連携した相続サポートパッケージ

ステップ 1：AI を活用した初回ヒアリング（自動質問シートの活用）

ステップ 2：財産・家族構成を可視化した「相続診断レポート」の提供

ステップ 3：相続トラブル予防のための“家族会議キット”の提供

ステップ 4：将来を見据えた定期点検型のサポート（年間契約）

このように、「点」ではなく「線」で相続支援を行う仕組みを設けることで、相続診断士の価値は大きく高まります。

■ 2. 「情報提供」から「意思決定支援」へ

AI が情報や文書を整えてくれるようになった今、相続診断士が重視すべきなのは、「判断の手助けをすること」です。

たとえば、次のような状況において：

- ・「長男に家を残したいけれど、長女との関係も壊したくない」
- ・「生命保険を活用した方がいいと聞いたが、本当にそれで公平になるのか」
- ・「介護を担ってくれた子に多く残したいが、他の相続人が納得するか不安」

これらは、単なる法律や税務の話ではなく、“家族の感情”や“人生観”が絡む判断です。

AI は制度や数値の提案はできますが、このような繊細なバランスを取ることはできません。

だからこそ、相続診断士は「AI + 共感力」で支援する立場に立つことが重要になります。

■ 3. AI を活用した「商品・サービスの開発」という発想

今後のビジネスモデルは、「相談を受ける」だけでなく、AI を活用した“商品・サービス”を設計・提供する側に回ることがカギになります。

✔ **たとえば、こんな AI 活用型の新サービスが考えられます：**

サービス名	概要	価格帯の目安
AI 家族会議ガイドブック	AI が家族構成・財産情報を元に、相続人同士の話し合いの進め方を提案	¥10,000～
あなた専用エンディングノート生成サービス	ヒアリング結果を元に AI がエンディングノートの内容を自動生成	¥15,000～
AI 遺言シミュレーター	遺言案を AI が複数生成し、相談者が比較検討できるツール	¥20,000～
相続 DX 伴走パッケージ	すべての資料整理・可視化・書類準備を AI と連携してトータル支援	月額 ¥5,000～ ¥10,000

このように、“商品設計”という視点を持つことで、継続的な収益モデルと専門性の差別化が実現します。

#### ■ 4. 専門家同士の AI 連携で“チーム化”が進む

相続支援は、多職種との連携が必要な分野です。AI の活用によって、専門家チームとの協業がよりスムーズに、より価値あるものへと進化していきます。

✔ **未来型チームビジネスモデルのイメージ：**

- ・相続診断士：相談の入口設計・家族間調整・AI 支援導入
- ・税理士：相続税対策とシミュレーション支援
- ・司法書士：登記・相続関係説明図作成
- ・弁護士：トラブル対応・遺言執行

AI：情報整理、財産一覧生成、Q&A 対応、文書作成補助

**相続診断士が「相続支援の司令塔」として全体をまとめることで、相談者にとって安心と一貫性ある支援を提供できるのです。**

## ■ 5. 「相続支援×教育」や「相続支援×地域貢献」への展開も

AI を活用することで、今まで手が届かなかった相続支援の分野にも可能性が広がります。

### ✓ 地域の高齢者施設での「AI エンディングノート講座」

AI が質問を投げかけ、高齢者が自分でノートを埋めていく形式。診断士はファシリテーター役として信頼関係を築けます。

### ✓ 中学校や高校での「AI と家族の未来設計」ワークショップ

若い世代に相続や家族の大切さを伝える教育活動を AI とともに展開。将来の相談者や紹介者につながるブランディング活動に。

### ✓ 地方自治体と連携した「相続支援×地域包括ケア」モデル

行政の相続未処理案件（空き家対策など）を、AI と診断士がチームで支援する新たな公共モデルの実現も可能になります。

## ■ まとめ：AI 時代の診断士は「支援者」から「創造者」へ

これからの時代、相続診断士が AI と共に歩むことで生まれるビジネスモデルは、次のような変化をもたらします：

旧モデル新モデル	(AI 活用型)
単発の相談	継続的サポート・年間契約型
情報提供	意思決定支援・共感型支援
顧客対応	仕組み提供・商品提供
専門家個人	チーム型支援の中核
面談業務中心	教育・地域連携・創造型支援

**「AI で業務を時短」ではなく、「AI とともに価値を創る」発想が、新しい相続支援の扉を開きます。**

私たち相続診断士は、法律や制度だけでなく、人の人生に寄り添う“未来支援の専門家”です。

AI という新しい相棒と共に、もっと多くの人に安心と希望を届けていきましょう。

た文章で執筆いたします。

### 第3節 クライアントとの信頼関係と AI の共存

——「人にしかできないこと」が、AI 時代における専門家の価値になる

#### ■はじめに：「AI を使うことで、信頼が薄れるのでは？」という不安

ChatGPT などの生成 AI が注目される中、多くの相続診断士が次のような心配を口にします。

「AI を使うのは効率的だけど、クライアントに“手抜き”と思われたいだろうか？」

「人と信頼が何より大切なこの仕事で、AI が間に入ることに抵抗がある…」

これは非常にまっとうな感覚です。

相続相談というのは、ただの情報提供ではなく、「この人に話してよかった」と思ってもらえる“信頼関係”がすべての出発点だからです。

しかし結論から言えば、**AI と信頼関係は対立するものではありません。むしろ、共存できます。**

この節では、「相続支援に AI を取り入れながら、どうすればクライアントとの信頼を深めることができるのか？」という実践的な問いに、相続診断士の視点から答えていきます。

#### ■ 1. 信頼の本質とは、「時間」ではなく「誠意」と「理解力」

まず押さえておきたいのは、「信頼される診断士」とは、次のような専門家です：

- ・話をよく聞いてくれる
- ・難しいことをわかりやすく説明してくれる
- ・自分の立場に立って考えてくれる
- ・気持ちを否定せず受け止めてくれる
- ・最後まで丁寧に寄り添ってくれる

つまり、**知識の多さや話の長さよりも、「どれだけ心に向けてくれるか」が信頼の土台**になっているのです。

ここで重要なのは、AI を使うこと自体が“誠意のなさ”や“冷たさ”と直結するわけではない、

ということです。

むしろ、AI によって時間と手間を省き、そのぶん相談者にじっくり向き合える余裕をつくることができれば、それは信頼関係を深める手段にもなるのです。

## ■ 2. AI を使っても、伝え方ひとつで信頼は深まる

同じことをしていても、相談者の印象は「伝え方」で大きく変わります。

たとえば、AI を使って説明文や資料を作成したとき、そのことをどのように伝えるかによって、信頼感はまったく異なります。

### ✓ 「これは AI にやらせた資料です」と言うと…

➡ 「機械任せなんだ」「適当な対応かも」と不安にさせてしまう可能性があります。

✓ 「この資料は AI も活用して、よりわかりやすくなるように工夫しました。最終的には私が責任をもって監修していますので、ご安心ください」と言うと…

➡ 「丁寧に準備してくれた」「今どきの新しい技術も取り入れている」と好印象になります。

人は、技術そのものよりも、“それをどう使うか”“どう向き合っているか”を見るのです。

## ■ 3. 信頼関係を深める AI 活用の 3 つのコツ

### ① 「AI だからできること」「人にしかできないこと」を分ける

信頼を失いやすいのは、「人にしかできないこと」を AI に任せてしまうケースです。たとえば：

- ・クライアントの不安に寄り添う言葉かけ
- ・感情のこもった対話
- ・兄弟間の空気を読みながらの場づくり

これらは AI にはできません。

一方で、次のような業務は AI の得意分野です：

- ・財産一覧表のたたき台作成
- ・よくある質問への初期回答文
- ・説明資料の下書き
- ・面談後のメモの要約

## “人の温もりが必要な場面は自分が担い、事務的な補助は AI に任せる”

この役割分担ができていれば、AI を使っていることが“手抜き”ではなく、“工夫と誠意”として伝わります。

### ② AI で得た答えに、必ず“自分の言葉”を添える

たとえ AI が素晴らしい文章を作ってくれたとしても、それをそのまま読み上げたり、メールで送るだけでは、相手に「この人、本当に自分のために考えてくれているのだろうか？」という疑問を持たれるかもしれません。

だからこそ、AI で作った文書には、必ず「私なりのひと言」を添えましょう。

たとえば：

**「今回の件について、まず基本的な考え方を AI で整理してみました。  
でも実際は、ご家族それぞれのお気持ちや関係性も大切に考えたいので、今後も一緒に調整していきましょうね。」**

このように、「あなたのことを思って作りました」というメッセージが伝われば、AI を使ったことが信頼を損なうことにはなりません。

むしろ、「この人は新しい技術も取り入れながら、私のことを考えてくれている」と、**プラスの評価につながります。**

### ③ 「対面でしかできない支援」に注力する

AI を使うことによって浮いた時間は、信頼を築くための時間に充てましょう。

たとえば：

- ・クライアントとの雑談の時間
- ・家族関係の背景をじっくり聴く面談
- ・相続人との初顔合わせの調整や同席
- ・「なんとなく不安」に対する共感と傾聴

こうした“人間味あふれるサポート”が、AI の時代において**ますます価値を持つもの**になります。

#### ■ 4. 相続診断士の“信頼性”が、AI 活用を正当化する

実は、AIを使っている「この人がやっているなら大丈夫」と思ってもらえるかどうかは、**日頃の姿勢や信頼の積み重ねにかかっています。**

- ・普段から丁寧な説明をしている
- ・クライアントの立場に立って考えている
- ・話をきちんと聞いてくれる
- ・小さなこともきちんと対応してくれる

そうした行動の積み重ねが、AI の活用に対しても「この人は適切に使っているに違いない」という信頼につながります。

つまり、“AI をどう使うか”以上に、“自分がどう見られているか”が信頼関係に影響するのです。

#### ■ 5. 未来の相続支援は、「AI×人間力」で成り立つ

これからの相続支援は、以下のように進化していくでしょう：

項目	AI が担うこと	相続診断士が担うこと
情報提供	制度の説明、Q&A、資料の下書き	感情や背景を踏まえた判断支援
文書作成	遺言案、ヒアリングシートのたたき台	法的・倫理的チェックと調整
話し合い	論点整理、感情を和らげる言い回し提案	家族間の調整・ファシリテーション
信頼形成	×（不可能）	○（対話と共感による構築）

このように、**AI は補助であり、信頼を築く主役はあくまで人間である私たち相続診断士です。**

#### ■ まとめ：「AI があるからこそ、信頼される診断士でいよう」

AI は、相続診断士の仕事を奪うものではありません。

むしろ、「自分にしかできないこと」を際立たせてくれる存在です。

- ・相談者の目を見て話す
- ・複雑な感情の背景を汲み取る
- ・家族の未来に安心を与える

・「話してよかった」と心から言ってもらえる

これらは、AI にはできません。**人だからこそできる、価値のある仕事です。**

だからこそ私たちは、AI と共存しながら、“**人間らしい信頼を積み重ねる専門家**”であり**続けることが重要**です。

AI に助けられ、AI に支えられながら、  
その先で人と人との信頼を築いていく——

それが、これからの「**相続診断士の姿**」なのです。

## 巻末付録 1 ChatGPT 活用プロンプト集

——明日からすぐ使える！相続診断士のための“AI 指示文”テンプレート

### ■はじめに：プロンプト＝AI への「お願いの仕方」

ChatGPT は非常に優秀な生成 AI ですが、その力を最大限に引き出すためには「どう指示するか」が非常に重要です。この指示文のことを「プロンプト」と呼びます。

相続業務では、相談者との面談、資料作成、文章の生成、分割案の検討など、実に多様な業務があります。そうした場面で、適切なプロンプトを使うことで、ChatGPT はあなたの“優秀な秘書”として機能します。

本付録では、**相続診断士の実務に即した形でプロンプトの使い方と例文を紹介**します。明日からそのまま業務に使えるよう、【目的】【プロンプト例】【応用のコツ】の 3 点で構成しています。

### 【1】ヒアリング・面談準備編

**目的：相談者の状況を丁寧に引き出すための質問リストを作成する**

#### ■プロンプト例①：遺言書作成の事前質問

80 代の女性が遺言書を作成しようとしています。ご本人の気持ちや家庭状況を整理するために、優しい言葉でヒアリングできる質問項目を 10 個作成してください。

#### ■プロンプト例②：相続財産棚卸しのための質問

相続診断士が、相談者から財産情報をヒアリングするための質問リストを作りたいです。不動産、預金、保険、株式などを漏れなく聞き出すための質問を、箇条書きで 15 個作ってください。

#### 応用のコツ：

- ・年齢や家族構成を加味して具体的に（例：「一人暮らしの 70 代女性」など）
- ・トーン指定（例：「やさしく」「堅苦しくない」など）を入れると実務に適した言い回しに

## 【2】説明文・資料作成編

目的：専門的な内容を、相談者が理解しやすい言葉に変換する

### ■プロンプト例①：遺留分の説明文をやさしく

「遺留分とは何か？」について、相続の知識がない 50 代の一般女性にもわかるように、やさしい言葉で説明してください。文字数は 400 字以内でお願いします。

### ■プロンプト例②：相続登記義務化の解説資料

2024 年から始まる相続登記の義務化について、相談者に説明するための資料を作成したいです。概要、対象、不動産を持っている人がやるべきことを、見出し付きでまとめてください。

#### 応用のコツ：

- ・説明相手（「高齢者」「子世代」「会社経営者」など）を指定
- ・形式指定（「箇条書きで」「図表風に」「Q&A 形式で」など）でアウトプットを整える

## 【3】分割案・遺言案のたたき台作成編

目的：相続人構成と財産情報から、分割のイメージを可視化する

### ■プロンプト例①：公平感ある遺産分割の提案

被相続人の財産は以下の通りです。自宅不動産（2,000 万円）、預金（1,200 万円）、株式（800 万円）。相続人は長男、長女、次男の 3 人。長男が親の面倒を見ていました。公平感を重視した遺産分割案を 3 つ提案してください。

### ■プロンプト例②：遺言書のたたき台作成

70 代の男性が、長男に家を、長女に現金を残したいと考えています。自筆証書遺言として適切な形式で、そのたたき台となる文案を作成してください。法的な様式を参考にしてください。

#### 応用のコツ：

- ・財産の種類・金額はできるだけ具体的に提示
- ・相続人の感情・背景情報（例：「疎遠な兄弟がいる」など）を加えるとより現実的な案に

#### 【4】感情ケア・家族調整のサポート編

目的：対立しがちな相続人同士の対話を、穏やかに導く言葉を得る

##### ■プロンプト例①：感情をなだめる表現のリライト

「私は 10 年も介護をしてきたのに、他の兄弟と同じ相続は納得いかない」という主張を、相手を傷つけず、落ち着いた言い方に言い換えてください。

##### ■プロンプト例②：家族会議の進行スクリプト

相続人 3 人が遺産分割でもめています。冷静な話し合いになるよう、相続診断士として進行役を務める場合の家族会議のスクリプトを作成してください。最初の挨拶、論点整理、結論の出し方まで含めてください。

応用のコツ：

- ・「相手を責めない」「対話がうまくいくように」など、目的の明示がポイント
- ・感情的な表現をソフトに変換させることで、対話の潤滑油として活用可能

#### 【5】報告書・提案書・案内文の作成補助

目的：クライアント向けの文書や提案資料を、効率よく整える

##### ■プロンプト例①：初回面談後の報告メール文案

相続相談の初回面談を終えた後、相談者に送るお礼メールの文案を作成してください。面談で話した内容を簡単に振り返り、今後の流れについても案内してください。堅すぎず、丁寧な言葉でお願いします。

##### ■プロンプト例②：相続支援サービスの案内文

相続対策を考え始めた 60 代の方向けに、相続診断士としてのサポート内容を紹介する案内文を作りたいです。「早めの準備が安心につながる」というメッセージを中心に、やさしい語り口で 400 字以内にまとめてください。

応用のコツ：

- ・「メール形式」「チラシ用」「HP 掲載用」など用途を明記
- ・相談者の属性（年代・性別・家族構成など）を設定してパーソナライズ化

## 【6】教育・セミナー・啓発活動での活用

目的：一般向け・専門家向けの学習教材や解説を AI に作成させる

### ■プロンプト例①：エンディングノートセミナー用の話材

70 代以上の方向けに、エンディングノートの書き方講座を開催します。導入部分で話す「なぜ今、エンディングノートが必要なのか？」を、心に響くストーリー仕立てで 3 分程度のスピーチ原稿にしてください。

### ■プロンプト例②：相続診断士向け勉強会の資料下書き

相続診断士向けに、「相続税の基本と小規模宅地等の特例」について解説する勉強会を開きます。講義資料の下書きとして、見出し、説明、注意点を含めた構成を作成してください。

### 応用のコツ：

- ・想定する聴衆を具体的に（「初学者向け」「高齢者向け」「子世代向け」など）
- ・「スライド用」「読み上げ用」「配布資料」などフォーマットを明記

## 【おわりに】プロンプトは“共に学ぶ対話の道具”

ChatGPT は、使えば使うほど“あなたの考えを整理してくれる道具”になります。

相続という繊細で感情に深く関わる分野では、プロンプトは「ただの命令」ではなく、「一緒に考えてくれる相棒への問いかけ」のようなものです。

大切なのは、「何を聞くか」よりも「何のために聞くのか」を意識すること。

そして、その答えを相談者に伝えるときに、自分自身の言葉を添えることです。

このプロンプト集が、あなたの AI 活用の第一歩となり、

クライアントにとって、よりやさしく、より安心できる相続支援を届けるための力になれば幸いです。

## 巻末付録 2 おすすめ AI ツールリスト（相続業務向け）

——明日から使える！業務を効率化し、支援の質を高める AI ツール厳選ガイド

### ■はじめに：AI は「使ってこそ意味がある」

ChatGPT をはじめとする生成 AI の登場により、相続診断士の仕事は大きな変革期を迎えています。

- ・書類の作成や下書きが一瞬でできる
- ・面談前の質問項目やチェックリストも自動生成
- ・FAQ、説明文、案内状など、クライアント対応も AI が補助
- ・財産情報の整理や分割案のシミュレーションまで効率化

しかし、便利さを知りながらも、「結局どの AI ツールを使えばいいの？」「無料のものでも実務に使える？」といった声もよく聞かれます。

この付録では、**相続業務に役立つ AI ツールをジャンル別に厳選し、用途・使い方・注意点をわかりやすく解説**します。

実際に使って効果を実感したツールばかりです。ぜひ日々の業務にお役立てください。

### 【1】文章生成・構成補助ツール

#### ◎ ChatGPT（OpenAI）

**用途：文章作成、質問応答、対話的な相談準備**

- ・遺言や相続説明文のたたき台作成
- ・面談後の報告書・議事録の要約
- ・FAQ や案内文、メールテンプレートの下書き

#### **おすすめ理由：**

非常に自然な文章生成が可能。相続相談の“やさしい説明”を作るのに最適。無料プランもあり、まず試すならこれ。

#### **注意点：**

最新の法改正や日本特有の制度には誤りもあるため、必ず人間のチェックが必要。

### ◎ Claude (Anthropic)

**用途：長文処理、倫理的配慮を含む文章生成に優れる**

- ・複雑な相続案件の説明文章を整理
- ・「家族関係に配慮した表現」を AI に任せたいときに便利

**おすすめ理由：**

ChatGPT よりもやわらかく、共感的な文体を得意とする。相続特有の“人間関係に配慮した表現”に強い。

**注意点：**

日本語での回答精度は ChatGPT に比べやや劣る場合あり。文章生成後の確認は必須。

## 【2】資料作成・テンプレート化支援ツール

### ◎ Notion AI

**用途：業務マニュアル、チェックリスト、手順書の自動生成**

- ・相続支援フローの整理
- ・セミナー資料の構成設計
- ・相続人向けのエンディングノート記載例の作成

**おすすめ理由：**

自分用のナレッジベースを作りながら、AI が文章補助。文書管理 + AI 活用がこれ一つで完結。

**注意点：**

英語ベースの UI だが、使い方はシンプル。日本語対応も十分。

### ◎ Canva (Magic Write 搭載)

**用途：パンフレット、チラシ、図解資料作成と文章補完**

- ・相続相談会の案内チラシ作成
- ・財産分割の図式化（マインドマップ的に）
- ・AI が説明文を補足し、見た目も整う

**おすすめ理由：**

グラフィックデザイン初心者でも、直感的に“美しい資料”が作れる。AI 機能付きでテキストも自動補助。

**注意点：**

無料版だと一部機能が制限されるが、十分実用レベル。

### **【3】音声・文字起こし・面談支援ツール**

◎ **Whisper (OpenAI)**

**用途：音声の文字起こし（録音→テキスト変換）**

- ・面談の録音データを自動で文字起こし
- ・高齢者との会話記録を文書化して保管

**おすすめ理由：**

無料で使える高精度の音声認識 AI。弁護士や医療分野でも注目されている。

**注意点：**

録音データの取り扱いには細心の個人情報管理が必要。

◎ **otter.ai**

**用途：Zoom 面談・セミナー録音のリアルタイム文字起こし**

- ・Web 会議での相続相談記録をその場で自動文字化
- ・後から内容を確認・共有するために便利

**おすすめ理由：**

音声と画面共有内容を組み合わせて議事録化できる。クライアントとの合意形成プロセスに有用。

**注意点：**

日本語対応はやや弱い。英語メインの会議や記録用途で使いやすい。

#### 【4】図解・チャート・家系図作成ツール

##### ◎ Lucidchart

**用途：相続関係説明図や財産の構造図の作成**

- ・家系図＋財産のつながりを可視化
- ・相談者に“視覚で理解してもらおう”ツールとして有効

##### **おすすめ理由：**

マウス操作だけで関係図を簡単に作成可能。相続診断士が“見せて説明する”力を強化できる。

##### **注意点：**

日本語フォントに若干のクセがある。最終仕上げは PDF 出力して調整。

##### ◎ draw.io (diagrams.net)

**用途：無料で図解資料を作成できる高機能ドロー系ツール**

- ・相続財産の分割シナリオをチャートで示す
- ・問題点の構造化を図で整理

##### **おすすめ理由：**

完全無料でここまでできるのかと驚くほどの機能性。使い方に慣れれば強力な資料作成ツールに。

##### **注意点：**

やや慣れが必要。事前にテンプレートを活用するのがおすすめ。

#### 【5】法務・契約・制度確認用 AI・サイト

##### ◎ AI-CON (GVA TECH)

**用途：契約書・合意書・遺言書などのチェック支援**

- ・遺言文案のチェック（形式や表現の妥当性）
- ・死後事務委任契約や家族信託契約の書面チェック補助

**おすすめ理由：**

法務専門 AI として実用度が高く、契約書レビューの質を大幅に向上。相続と民事法務の接点に強い。

**注意点：**

有料プランが中心。頻繁に契約文案を扱う専門家向け。

◎ **e-Gov 法令検索／法務省 HP**

**用途：相続関連法令の確認、制度変更のチェック**

民法（相続法）の条文確認

相続登記の義務化や法改正の一次情報確認

**おすすめ理由：**

生成 AI の知識は不正確なことがあるため、最終確認には必ず公式情報を。ChatGPT の出力の裏取りにも最適。

**注意点：**

検索ワードや条文の読み取りに慣れが必要。用語検索の工夫を。

**【おわりに】“使える道具”を選ぶ力が、診断士の差になる**

本付録で紹介した AI ツールは、相続診断士の仕事を効率化し、相談者への支援の質を高めるためにとても役立ちます。

ただし、重要なのは「ツールを知っていること」ではなく、「目的に応じて適切に使えること」です。

そして、AI がサポートしてくれるからこそ、“人にしかできない支援”に時間とエネルギーを注げる時代になりました。

- ・丁寧なヒアリング
- ・感情に寄り添う対話
- ・家族全体を見据えた判断のサポート
- ・「この人に話してよかった」と思ってもらえる信頼関係の構築

これらは、どんなに AI が進化しても、人にしかできない仕事です。

ぜひ、あなたに合った AI ツールを取り入れ、「AI×人間力」で、より多くの方の安心と幸せを支える相続支援を実現してください。



# AIが相続を変える日

---

2025年4月11日 初版発行

著者 山内 真二

定価 本体価格1500円+税

発行所 Bizdesign Consulting

〒455-0824 愛知県名古屋市西川町3-16

TEL&FAX 052-700-2242

URL <https://bizdesign-consulting.com/>

本書を無断で複写・複製することを禁じます。

©2024 Bizdesign Consulting